

令和6年度
日野市立図書館の運営の
状況に関する評価書
(令和5年度事業)

くらしの中に図書館を

地域に根ざした「知のひろば」が
本と人との「わ」をつくる

令和6年10月
日野市立図書館

目次

1 はじめに	1
2 評価の目的	1
3 図書館の現状	1
(1) 施設	1
(2) 組織・職員（令和6年4月1日現在）	2
(3) 主な業務	2
4 評価の実施方法	2
5 評価の対象	2
6 評価の結果	4
(1) 図書館協議会の総括的意見	4
(2) 図書館の自己評価	13
7 令和5年度主要な取組(主要事業) ／第4次日野市立図書館基本計画の重点取組項目	15
統計資料	74
日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱	91
図書館協議会委員名簿	92

1 はじめに

平成20年6月に「図書館法」が改正され、図書館の運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めること、また、図書館奉仕に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該図書館の運営に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならないこととされました。

そのため、図書館では、平成21年3月31日に、「日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、平成21年度から図書館の運営状況に関する評価を開始しました。

2 評価の目的

この評価は、図書館の運営状況に関する情報を積極的に提供することにより、市民・利用者やその他の関係者との理解を深め、連携及び協力を推進し、市民・利用者に信頼される効果的な図書館運営の推進に資することを目的に行います。

この目的遂行のため、図書館は毎年1回、運営状況について評価を行い、その評価に関する報告書を毎年作成し、教育委員会に提出するとともに、市民に公表することとしています。その評価結果に基づき図書館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

3 図書館の現状

(1) 施設

施設の名称	延べ床面積	現館の開館日	所在地	蔵書数
中央図書館	2,220 m ²	昭和 48. 4. 28	豊田 2-49-2	285 千冊
移動図書館	1 台 (21 駐車場)	昭和 40. 9. 21	同上	36 千冊
高幡図書館	1,358 m ²	昭和 55. 5. 11	三沢 4-1-12	103 千冊
日野図書館	422 m ²	昭和 55. 5. 18	日野本町 7-5-14	59 千冊
多摩平図書館	856 m ²	平成 16. 4. 1	多摩平 2-9 多摩平の森 ふれあい館 1 階	128 千冊
平山図書館	412 m ²	平成 20. 4. 5	平山 5-18-2 平山季重 ふれあい館 1 階	69 千冊
市政図書室	140 m ²	昭和 52. 12. 1	神明 1-12-1 日野市役 所 1 階	50 千冊
百草図書館	759 m ²	平成 2. 11. 16	百草 204-1 ガーデン ビュー石神 D2 階	75 千冊

(2) 組織・職員（令和6年4月1日現在）

3係（庶務・業務・奉仕）、6分館

- 正規職員 30人（うち司書 24人）
- 再任用職員 8人（うち司書 3人）
- 会計年度任用職員（年1,500時間換算） 40.4人

(3) 主な業務

- 図書館資料の収集、整理及び保存
- 個人貸出、団体貸出
- 読書案内及び読書相談
- レファレンス
- 図書館資料の図書館間相互貸借
- 市内の学校への資料提供と支援
- 地域・行政資料の収集・提供・保存
- 読書会、研究会、講習会、展示会等の主催及び奨励
- 館報その他の読書資料の発行及び頒布

4 評価の実施方法

評価の対象事業について、図書館の活動実績・自己評価を、図書館協議会に報告し、定例協議会において主要事業の概要説明をしました。それに対し図書館協議会委員の意見をいただき、評価を行いました。

5 評価の対象

令和5年度主要な取組（主要事業）の2事業と「第4次日野市立図書館基本計画」の重点プロジェクトとして位置づけした「つなぐ『わ』プロジェクト」で重点的に取り組む項目に加え、第4次日野市子ども読書活動推進計画の推進事業を評価対象としました。

○ 令和5年度主要な取組（主要事業）

1. 第4次図書館基本計画の推進
2. 社会教育施設（一部）個別施設計画の策定

○ 第4次図書館基本計画に基づく令和5年度重点項目

1. 現在および未来の市民が求める資料・情報を収集・提供・保存します
 - (1-1-②) 地域・行政資料の収集・提供・保存
 - (1-1-③) デジタルアーカイブの構築
 - (1-2-③) レファレンスサービス・読書相談サービスの充実
2. 本・人・地域をむすび、地域の文化を支える拠点となる図書館をめざします
 - (2-1-③) 地域館ごとの取り組みの充実
 - (1) 高幡図書館
 - (2) 日野図書館
 - (3) 多摩平図書館
 - (4) 平山図書館
 - (5) 百草図書館
 - (6) 市政図書室
 - (7) 移動図書館「ひまわり号」
 - (8) 中央図書館
3. だれもが利用しやすく、魅力のある図書館をめざします
 - (3-1-①) 第4次日野市子ども読書活動推進計画の推進
 - (3-2-②) 図書館の利用に障害がある方の読書環境の整備
 - (3-3-①) だれでも気軽に立ち寄れる雰囲気づくり
4. 市民が本・情報と出あい、発見する環境や機会を創出します
 - (4-1-③) 読書体験の共有・発信
 - (4-1-④) 電子図書館サービスの導入検討
 - (4-2-①) 本や読書などの魅力を伝えるイベント・企画などの開催
5. 図書館の魅力や活動を市民に広めていきます
 - (5-1-②) 双方向によるコミュニケーションの充実
 - (5-2-①) 図書館の利活用や来館につながるようなサービスの普及・啓発
6. 市民とともに歩んでいける持続可能な図書館の運営体制を整備します
 - (6-1-①) 図書館におけるDXのあり方の検討
 - (6-1-②) 施設の老朽化対策・防災安全対策の推進
 - (6-3-①) 職員研修の充実と職員の育成

6 評価の結果

(1) 図書館協議会の総括的意見

○ 令和5年度主要な取組（主要事業）

1. 第4次図書館基本計画の推進

日々のサービスを着実にやりながら一年間の予定項目を実施・実行できたこと、また、地域や関係機関とつながり、市民が主役の図書館をつくっていることを大きく評価する。

第4次図書館基本計画の初年度にふさわしく、計画を推進しようという意欲と行動力が感じられる成果を得ることができた。年齢、個性、環境等により異なるニーズにも、サービスを充実させることで応え、魅力ある図書館であり続けようとする姿勢は高く評価できる。また、旧態依然とした体制に留まることをせず、デジタルアーカイブの構築や、電子図書館サービス、DXのあり方検討を進めるなど、取り入れるべきものは貪欲に取り入れ、図書館をバージョンアップさせようとする意志が見えるのもよい。

ただ、全体として行われた事業に対し利用者の反応（利用数、アンケート）を客観的に把握、分析して次年度への課題として図書館全体で共有しているかが分かりにくい。

今後の課題としては、せっかく企画した各種イベントやアンケートなどへの参加者をいかに増やすか、図書館利用者の裾野をいかに広げるかが重要だと考える。

令和5年度は、第4次図書館基本計画の初年度のため、まずは計画に示した事業をより具体的に実施していくことが望まれる。初年度として、各事業項目の実施が順調に始まったようなので、これからもより魅力ある図書館にしていくために計画を推進してほしい。次年度以降の進捗状況を注視していきたい。

2. 「社会教育施設（一部）個別施設計画」の策定

市民からアンケートを集め、様々な思いを聞きながら、将来の姿を示した計画が策定できたことを評価する。公共施設の総量縮減は、日野市全体の方向性であり、市の公共施設である図書館もその方針に則って個別施設計画を策定した。図書館の機能や安全性を維持しつつ、財政問題という現実の課題にも向き合ったうえで、長寿命化等の方向性を選択したと理解した。

一方で、有機的に働くシステムとしての日野市立図書館のあるべき姿の詳細検討が十分になされたのか疑問が残る。図書館に関するガイドライン「公立図書館の任務と目標（図書館の最低規模）」などとも比較し、今後、公民館や児童館との複合化を行うとしたら、図書館としての機能を果たしつつ、それ以外にどのようなメリットがあるのか、どのようなデメリットが生じてしまうかなどの調査・検討を慎重に進めてほしい。

図書館の本質と日野市立図書館がいままで歩んできた積み重ねは大切にすべきである。初代前川恒雄館長や当時の有山崧市長の書き残した文献に「市民の図書館」のあり方が示されている。それを実現し、全国から注目されてきたのが日野市立図書館であると言える。その積み重ねを大切にしながら、計画の推進を願いたい。

○ 第4次図書館基本計画に基づく令和5年度重点的取組内容

基本方針1. 現在および未来の市民が求める資料・情報を収集・提供・保存します

1-1-② 地域・行政資料の収集・提供・保存

各地域館が、関係部署や地域団体と連携を図りながら、それぞれの地域の歴史や文化を伝えるための情報を独自に収集し、提供、展示を行っていることは評価できる。郷土の詩人「巽聖歌」を介して、他自治体図書館と連携した事業や展示では、図書館でかつてあった資料や古書店から手に入れた資料を展示しており、たいへん興味深かった。他館でも展示する機会があるとよい。今後とも同様の取り組みを推進して欲しい。

新聞の地方版は、地域に関する情報源として大切である。縮刷版やデジタル版での収集がしづらい資料であるうちは、マイクロフィルムの保存は継続することが望まれ、そのための保存環境整備を行った点は評価できる。

一方で、その収集・保存については各館でバラツキがあるように見受ける。特別展示された資料のデジタル化など図書館として統一した方針を示せないだろうか。

1-1-③ デジタルアーカイブの構築

地域資料や地方行政資料は、地域を知るために貴重な情報源であると同時に、多くの市民の閲覧に提供されるべき資料である。デジタル化をすすめ、図書館ホームページを通して、インターネットから気軽にアクセスできるようにするための基礎的な作業を推進している点を評価したい。

またデジタルアーカイブ構築に向けての連年の予算確保の取り組みにも工夫と努力を重ねながら推進している点は評価できる。経費については、この事業を継続していくためにも必要不可欠であるため、地域・行政資料の大切さと本事業の必要性について市民をはじめ、関係各部署にさらによく説明し、より多くの理解を得られるよう努めることが望まれる。

今後は限られた予算、限られた人員で、いかにデジタル化を行う資料を選別し蓄積していくかが課題になるのではないかと。また、デジタル化が完了した資料群をどのように提供し役立てていくかということも大切である。例えば「歴史的公文書」はカラーで公開されており、研究レベルにも対応できる資料提供であるが、それがなにより「歴史的公文書」として位置づけられるのか、市民へのわかりやすい説明が必要である。

1-2-③ レファレンスサービス・読書相談サービスの充実

レファレンスサービスにおいては、その情報源となる資料の情報を適宜更新する必要がある、その点の取り組みを継続して進めている点は評価できる。また、レファレンスサービスの存在をより多くの市民に伝える努力として、館報やミニ展示、レファレンス事例集の公開など努力を重ねている。中央図書館1階に展示したレファレンス資料は良い企画である。利用者増につながるとよい。今後は時事に関する情報や参考資料の積極的な情報提供を行って欲しい。中央図書館2階のレファレンス室へのサイン、案内などを親しみやすくするなど、さらに積極的なPRを望む。

また、パスファインダーは、図書館を使い慣れた人はもちろん、新規の利用者にとっては本や図書館の入り口となる。パスファインダーをさらに充実させることで、今後も人と図書館を繋いでいって欲しい。また、小中学校の授業で行う調べ学習にも有効なものであるので、学校図書館と連携して、様々なテーマに即したパスファインダーを作成し、子どもたちの図書館利用促進につなげてもらいたい。一方で、作成されたパスファインダーが広く利用者に届けられているか疑問である。データ化しホームページ上で市内全域での利用方法なども検討いただきたい。

基本方針２．本・人・地域をむすび、地域の文化を支える拠点となる図書館をめざします

2-1-③ 地域館ごとの取り組みの充実

(1) 高幡図書館

多くの連携事業や支援事業などメニューが盛り沢山であり、地域の特性(魅力)を高める事業が展開されている。ヤングスタッフ、たかはたブッククラブの活動など、高幡図書館の独自の取り組みは、読書のきっかけ作りと、図書館を多くの人に伝えるためにも継続して欲しい。人と地域の交流により地域の活性化を促す事業(まちゼミなど)においては、活性化の具体的成果を想定した試みが望まれる。

(2) 日野図書館

日野図書館は規模が小さい図書館ながらも、地域づくり活動や日野宿発見隊活動の支援を通して、地域に密着してその地域になくてはならない図書館であるといえる。来館型図書館としての魅力をさらに探って欲しい。残念なのは、親子連れの需要、若者の多数参加、地域支援、多くの資料の貸し出しなどありながらサービスを展開するための十分な施設が用意されていないことである。

(3) 多摩平図書館

地域、周辺施設の特性を把握し、交流事業を通して多様なサービスが行われ成果が上げられていると感じる。子どもと保護者の居場所を図書館とする取り組みが素晴らしい。昨年に比べて、アウトリーチに力をいれた取り組みが多く、職員の努力を感じる。「私のおすすめ本」展示活動は、利用者との双方向のコミュニケーションができる仕組みとして評価できる。

(4) 平山図書館

複合施設の特徴を活かし、施設内の各種活動と連携して、図書館ならではの情報提供や読書のきっかけ作りを推進している点は評価できる。職員が自主的に学びを深め選書に活かしていることは高く評価したい。テーマ展示もよく工夫されている。

闘病記や健康コーナーは独自性があり、需要もあると思う。しかしながら、認知度や広報に課題を感じる。また、駅前に立地するメリットを図書館サービスに十分に活かしているかも疑問である。フリーWi-Fiが利用できる施設であることは、もう少しアピールした方がいいと思う。

(5) 百草図書館

地域の図書館として、近隣施設や団体との連携を実現できており、評価できる。市民主導の読書会については、談話室の提供や館内でPRするなど支援した結果、本を通じた市民間の交流が生み出せた点を評価したい。本を巡る市民の生涯学習活動を支援し、新たな活動が生み出せる環境を継続して欲しい。

長い間検討してきた、くつろげるスペースができたことは評価できる。今後も「ひよこタイム」利用の乳幼児連れと、一般の利用者がお互い気持ちよく過ごせるような施設であることを期待する。

特別支援学級への団体貸出を児童が来館して選ぶ方式はとても良い取り組みである。「子どもの声を聴くこと」は、言葉だけでなく「選ぶ」ということにも当てはまる。続けて欲しい。

今後も2階に図書館があるという不利な条件を利用者との関わりをきっかけに解消して欲しい。

(6) 市政図書室

市の施策、地域の情報を市民に伝えるサービスは内外的に高く評価されている。市民への行政情報や地域情報の提供とともに、庁内への情報提供活動も行われており、事業全体を評価したい。その上で、施設としては既に手狭であり、現在ある貴重な資料を将来にわたって提供しつづけるためにはどのような様にするべきか、書庫の確保を含め、事業継続のための方策を検討してほしい。

また、市民にとって敷居が高いという思い込みが少なからずあるので、認知度を高めていくことが課題と感じる。市民が気軽に立ち寄り、地域の課題を解決していくような器(空間)になっていないのが非常に残念である。

(7) 移動図書館「ひまわり号」

「JAPAN MOBILITY SHOW 2023」への参加など、図書活動を超えた分野への進出は、これからも続けていくと良いと思う。大学連携のほか寄合処や生産品販売など、ひまわり号とイベントのコラボレーションが面白い。近年の巡回では利用者層と利用方法に変化を感じているという現場ならではの感覚があるのであれば、やはり改善が必要になると思う。

(8) 中央図書館

ビジネス支援の視点が他の図書館にはない取り組みだと感じた。「中央図書館開館50周年展示事業」は、過去の大成の回想に留らず、当時の関係者の熱意を未来へのメッセージとして捉え、過去、現在、未来に向けた展示として評価したい。また鬼頭梓氏の設計になる図書館施設自体は、市民にも親しまれ、日本における代表的な図書館建築の一つにも数えられる。今後はその維持管理が課題であるが、未永く日野市のシンボルとして維持して欲しい。

基本方針3. だれもが利用しやすく、魅力のある図書館をめざします

3-1-① 第4次日野市子ども読書活動推進計画の推進

(1) 第4次子ども読書活動推進計画の進行管理

作家の講演会や原画展など「本物に触れる」体験や、大人による読み聞かせなどは、子どもに本への興味関心を抱かせる効果的な仕掛けになっていると思われる。

「ボランティア懇談会」を対面で4年ぶりに開催できたことは、顔を合わせたの情報交換には価値があると思うので、とてもよかったと思う。

(2) 乳幼児へのサービス

おはなし会の実施、絵本パックの貸出などがより充実している様子が確認できた。本事業のさらなる継続推進が望ましい。

絵本パックは、内容の希望を聞きながら、さらなる充実を期待する。しかし、絵本パックの利点が短い来館時間だとすると、今後電子書籍(絵本)が充実してくるとそちらに代わっていくのが気になっている。与えられた絵本ばかりでなく、自分で選べるのが図書館の面白さでもあるので、手にとりたくなる工夫や、図書館で過ごす時間が楽しめるような取り組みにも期待したい。

(3) 小中学生へのサービス

小学生向けの読み聞かせは、子どもの心の育ちに大切な経験だと思うので参加人数が少なくても継続してもらいたい。

「夏休みジュニアスタッフ」「たかはたブッククラブ」など小学生が参加出来る図書館イベントは、読書のきっかけづくりのみならず、図書館の仕事や職員との関わりから、まちの図書館を知りその役割や必要性、大切さを知るよい機会になる。今後とも、「夏休みジュニアスタッフ」は全館を挙げて継続実施してほしい。

「たかはたブッククラブ」は、対象世代へのアプローチとして良い事業だと感じる。子どもたちの主体性や興味を引き出すような活動やアニメーションもされているので、さらなる発展を期待する。「たかはたブッククラブ」の活動をさらに他の地域館などにも広げてみてはいかがだろうか。

「中学生と作家の交流事業」も継続開催され、中学生の主体的参加、運営の方針が堅持されたことは、関わった中学生にとって、読書から発展する様々な体験のきっかけになったのではないだろうか。他自治体ではなかなか見られない活動であり、おおいに評価したい。今後とも事業の継続を強く望みたい。ただ、事業の性質上、実施が休日に限られていることから、学校(教職員)と連携するのは、なかなか難しい状況にある。事業の魅力をいかに周知・募集段階で子どもたちに伝えられるかが、本事業への参加者を増やす鍵となるので、前段階で学校に何を、どこまで、協力を仰げるか交渉を行うことが重要なのではないかと思う。ポスターやチラシ以外の手段を用意したいところではある。

(4) 青少年へのサービス

若い市民が主体的に図書館に関わる日野ヤングスタッフの活動に対し、場所の提供、活動の支援、見守り姿勢を維持し、引き続き若者の行動力を大切にしてほしい。若者の更なる想像力と実行力にも期待したい。ヤングスタッフの活動拠点は高幡図書館であるが、他地域館でも同様の活動に対する潜在的ニーズはないだろうか。例えば、この年代を対象として自分のお気に入りの本を持ち寄って自由に話すような読書会などから、色々な活動に発展していく可能性もある。検討してみてはいかがだろうか。

一方で、図書館の対象世代への取り組みがほぼヤングスタッフ活動の支援となっており、それ以外にこれといった施策が見当たらない。青少年の読書活動推進については、抜本的に見直す必要があるように思う。

(5) 学校支援

学校支援は、学校の教育活動に対する支援と学校図書館に対する支援があるが、その双方について継続推進している点は評価できる。また、実績が上昇している点で評価できる。

一方で、学校司書や司書教諭に対する、図書館司書の技術的な支援の必要性はないだろうか。「学校図書館司書・司書教諭の研修会」への参加も行っているところではあり、十分に評価できるが、今後、学校と連携を深めていくためには、どこが窓口になり、どのようなルートをとるべきか明確にしていく必要があるだろう。また、中学校の利用が増加して4校となったことは良いが、クラス数が増えていないなど、PRが課題といえる。

3-2-② 図書館の利用に障害がある方の読書環境の整備

障害者サービスは、公立図書館が市民の知る権利を保障する社会的な仕組みであればこそ、不可欠なサービスである。コロナ禍を経て、次第にサービス実施の状況が元に戻りつつあり、対面朗読の件数や時間も前年度に比べ上昇しているなど、各事業が着実に推進している点を評価する。

また、多彩なサービスが機能的に進められていることを感じる。様々な人が同じ開架室であたりまえに利用している風景づくりをさらに進めて欲しい。現在までの活動を評価すると共に、さらなる充実を希望する。

なお、音訳・点訳者の養成は、経験が重要でもあるので、継続した人材の育成と確保に努めて欲しい。経験や技量を持つ担当者を採用するほか、障害者サービスの必要性とその内容、実態などを多くの市民に伝えて、理解や協力を得ることも大切である。それによって、あらたな人材確保の可能性も見いだせるのではないだろうか。

3-3-① だれでも気軽に立ち寄れる雰囲気づくり

市民が気軽に立ち寄れることは、公共施設にとって重要な要件である。雰囲気や環境作りも大切であり、各館においてそれぞれの工夫があったようであり、評価したい。特に、図

書館の入口、周辺環境の手入れなどは非常に評価したい。

なお、その上で、図書館の目的は、市民にその必要とする情報を提供すること、求める本を手渡すこととも言える。その本質を大切にしながら、事業をすすめて欲しい。

多様なサービス事業が実施されていることは評価するが、それを機能させる施設が用意され潜在的利用者が導けるものと思う。企画展示などは、落ち着いて利用できるスペースで、また、子育て世代など気兼ねなくゆったり利用できる環境の整備が求められる。十分な数の読書席、空間も用意されていないにもかかわらず、席貸し機能を導入したことには疑問を感じる。

基本方針4. 市民が本・情報と出あい、発見する環境や機会を創出します

4-1-③ 読書体験の共有・発信

読書は本と向き合う個人的行為であるが、これが同じ本を通した読書体験を共有することで、社会的行為に転換する。読書を通した様々な体験を共有する仕組みとして図書館が、幅広い年代を対象として企画を検討して、実施、継続している点を評価したい。

館報「ひろば」に掲載している「図書館員の本棚」は、紹介文や選書にその人らしさが出ていて、とても良い。一方で、POPやオススメ本が子ども世代に偏っている印象を受ける。さらに推進するためには、成人向けの企画や、市内全館での活動なども取り組んで欲しい。

「双方向」企画は、市民と一緒に図書館をつくっていると感じられるもので市民同士のコミュニケーションとして面白い。図書館に愛着が湧くと思う。さらに力を入れて取り組んでほしい。

4-1-④ 電子図書館サービスの導入検討

市民の要望や他自治体の先行事例などから、検討準備を行っている様子が確認できた。検討から様々な準備を重ね、多くの困難を乗り越えて実施に至ったことを評価する。電子図書館サービスは、図書館に足を運ぶ時間がとれない働く世代にとって、とても便利なものなので、今後もタイトル数が増えていくことを希望する。

なお、各種交付金を利用することは、今後の事業継続において、経費の面から事業継続が望めなくなる可能性もある。また電子書籍については、そのライセンスを購入しているのであり、将来にわたってその資料が閲覧し続けることができる保障はない。その点からも紙媒体の資料を中心として、そこにニーズのある電子書籍は一時的な利用対象と考えて扱うことが必要であろう。また、電子書籍を図書館で扱う場合のメリットとデメリットも市民に説明する必要がある。

4-2-① 本や読書などの魅力を伝えるイベント・企画などの開催

図書館利用者のそれぞれの世代を対象とした企画を検討し、開催している点を評価したい。読書会「はじまりの読書会」は丁寧な事前準備から全5回の定期的な活動になったし、百草図書館の事例のように市民主体の読書会活動が行われた点も注目するべきであ

る。この様な活動が、他の地域館でも実施できるとさらによいのではないだろうか。この様な活動が図書館で行われていることをより多くの市民に伝えていくことも必要であり、図書館の役割である。

また、これらの取り組みを交代勤務や夜間勤務と複雑な職員体制で運営していることを評価する。

基本方針 5. 図書館の魅力や活動を市民に広めていきます

5-1-② 双方向によるコミュニケーションの充実

現状の取り組みでは、積極性やモチベーションを感じられない。

令和5年度の取り組みで、双方向のコミュニケーションづくりの成果としてあがったのは、館報「ひろば」への声を募る企画のみである。しかも投稿が6件では寂しいと思う。

利用者側がより発信しやすい方法を検討するべきであろう。Instagramなどの SNS の利用も有力な方法である。一方で、掲示板などを活用するなどアナログの方法もあった方がよい。また、どのような内容を対象とするのかなど、まだまだこれから取り組みを積み重ねていく必要がある。

5-2-① 図書館の利活用や来館につながるようなサービスの普及・啓発

来館につながるサービスとして、ひまわり号で配っていた「手作りしおり」は、とてもよいサービスだと思った。さらに「地場野菜(日野市の名産や名物)販売」「地元アーティストの作品販売」などを行ってはどうか。

普及啓発、それに伴う宣伝広報はおそらく恒常的な悩み事と思うし、改善が難しい問題でもある。

告知の面でいうと、やはり浅川を挟んで、北と南では温度差があるように感じる。南の京王線沿線だと図書館の催しなどに関して、希薄な感じが否めない。

図書館の情報発信としてウェブサイトや館報「ひろば」は一定の役割を果たしているが、各館で実施される様々な活動やヤングスタッフの活動紹介については、SNSを利用した発信でより多くの市民に素早く伝えることができるのではないかと。鎌倉市立図書館など他自治体図書館の X(旧 Twitter)活用事例なども参考になる。より情報の発信力の向上を求めたい。

基本方針 6. 市民とともに歩んでいける持続可能な図書館の運営体制を整備します

6-1-① 図書館における DX のあり方の検討

図書館システムのリプレイスは必要不可欠な事業であるが、そのなかで図書館における DX で何を実現するのかという点はまだ明確ではない。システムの視点のみならず、利用者へのサービスという視点からもこの課題は議論を深める必要がある。その際、図書館の基本を変えることなく、将来にわたって実現すべきサービスのあり方を視野に図書館における DX のあり方を検討するべきである。

DX は、デジタル技術を活用して、新たな価値を生み出していく技術であるから、それが

図書館にフィードバックされ、現在までの活動とともに、さらなる進化・充実を促すことを期待する。

また、資料・情報を扱う図書館員の情報共有のための環境整備(リスク・危機管理対応含め)を進め、確かな利用者サービスを支える環境を整えて欲しい。

引き続き、このまま前向きな取り組みを期待する。

6-1-② 施設の老朽化・防災安全対策の推進

施設の管理、防災、安全対策は、図書館がサービスを継続する上で、最も基本となるところである。老朽化した施設については、利用に差し支えなければ、部分的な修繕による継続した維持管理が望ましい。まだ老朽化していない施設であったとしても将来的な修繕計画に基づく、施設・設備の管理は必要である。

また、施設・設備の老朽化対策に重点をおいた取り組みとなっているが、社会的劣化(図書館システムの見直し、潜在的利用者への対応、まちづくりの視点)、安全対策の視点で計画を進め、来館者の安全を守り、気軽に安心して利用でき、快適に過ごせるような施設という視点でも対策を進めて欲しい。

引き続き、このまま前向きな取り組みを期待する。

6-3-① 職員研修の充実と職員の育成

各自の実務スキル向上のため、実務に追われ限られた時間の中で努力されている。コロナ禍あとの図書館を取り巻く社会環境の変化は加速しているように感じる。この時期にパイロットプロジェクトもスタートしている。時代をリードするような日野市立図書館を実現するためにも図書館員の育成・構成(技術継承、適正な世代配置、人員確保など)の強化や様々な外部研修(外部派遣含む)を早急に整え対応する必要性を感じる。

外部研修には積極的な参加がみられた点は評価できるが、内部の研修は1回だけの実施であり、十分とはいえない。職員アンケートによる希望内容の他に、図書館の自由に関わる事例検討など日本図書館協会の発信する情報などを活用して、職員間の意見交換や共通認識を作っていくことなど、図書館員として業務に関わる意見交換も大切ではないだろうか。

また、図書館をこれからも持続させていくためには、サービスや企画の充実、施設の補強だけでなく、ソフトも大切だと感じる。その最たるものは中の人、すなわち職員であり、彼らが様々な経験やノウハウ、知識などを培うことで、それが来館者へフィードバックされることになる。

新人図書館職員のスキルアップのためにも、先輩が経験や研修で得てきた知識や情報を職員全体で共有できるシステムがあればよい。

専門性の向上や研鑽の場として、研修に参加するのは良いことだと思う。図書館職員の当事者意識やモチベーションが今後の図書館事業の軸になると思う。さらに職員それぞれのキャリア構築や視野の広がりにも繋がると思う。積極的な研修の機会の確保と当事者意識をもった研鑽に期待する。

○ まとめとして

令和4年度に発生したランサムウェア感染事故により、一部の事務資料が喪失した中で、それまでと同様のサービスを継続するために、いろいろな苦労があったことと思う。令和5年度は、第4次図書館基本計画の初年度ということで、計画を推進させようという前向きな姿勢が感じられる成果を得ることができた。

新規事業としての電子図書館導入の準備、図書館システム更新の準備などは、高く評価したい。特に電子図書館は、図書館に足を運ぶ時間がない働く世代にとっても、図書館の利用に障害がある方々にとっても、便利なものである。子どもたちの読書活動を広げるための取り組みも含めて、様々な仕事が増加するだろうと想像する。協議会の委員として、ぜひとも職員の増員をお願いしたいところであり、意見として申し述べたい。

「社会教育施設(一部)個別施設計画」の策定については、アンケート等で市民の思いや意見を聞いたうえで、図書館の将来の姿を示すことができた。図書館の本質とこれまでの日野市立図書館の歩んできた積み重ねは大事にしてほしい。令和5年度、中央図書館が開館してから50周年を迎えた。「市民の図書館」として公共図書館のモデルと言われ、その後の日本の図書館建築に大きな影響を与えた歴史的価値を国の登録有形文化財として未来へ継承する準備を進めてほしい。

これからの日野市の図書館を、より魅力ある図書館にしていくために、今後も基本計画が予定通りに推進されていくことを願っている。各事業・取り組みの進捗状況を注視していきたい。

(2) 図書館の自己評価

【第4次日野市立図書館基本計画・第4次日野市立図書館子ども読書推進計画の推進】

令和5年3月に策定した第4次日野市立図書館基本計画の計画初年度であり、6つの基本方針と「わ」をコンセプトにした「～つなぐ『わ』プロジェクト～」を重点プロジェクトとして位置づけ、次のような重点施策を実施した。

基本方針1「現在および未来の市民が求める資料・情報を収集・提供・保存します」については、図書館財団の助成金を活用し、ふるさと文化財課とともに政策連携事業としてデジタルアーカイブの構築を行い、図書館ホームページで公開した。

基本方針2「本・人・地域をむすび、地域の文化を支える拠点となる図書館をめざします」では、各図書館がその地域の特色を活かし、世代（多摩平は子育て世代、平山は中高年の利用者が多い）に寄り添った取り組みを行った。

基本方針3「だれもが利用しやすく、魅力のある図書館をめざします」においては、図書館の利用に障害がある方への点訳・音訳サービス、宅配サービスやIT講習などを実施し、小学校を訪問するなどその啓発活動を行い、またサービスのPRにも努めた。

基本方針4「市民が本・情報と出あい、発見する環境や機会を創出します」では、図書館ホームページでの情報発信を積極的に行った。また、令和6年度導入に向け電子図書館サービスの準備を行った。なお、電子図書館についてはデジタル田園都市国家構想交付金を申請し財源の確保にも取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントや人の集まる機会が減少していたが、

ほぼ以前のイベント開催頻度に戻ってきた。しかし、参加人数は全般的に少なかった。市民に情報が届き、かつ足を運んでみたくなる広報・PRも重要であり、課題となっている。

基本方針5「図書館の魅力や活動を市民に広めていきます」では、図書館報「ひろば」が50周年を迎え、読者の声を募集し、その紹介を行った。SNSの活用などを取り組みとして掲げてきたものの実施に至っていない点は反省点である。若い職員を中心にプロジェクト化し、実現に向けて動き出したい。

基本方針6「市民とともに歩んでいける持続可能な図書館の運営体制を整備します」では、図書館システムの更新準備に合わせて図書館DXのあり方を検討し、社会教育施設（一部）の個別施設計画の策定を行い、中長期的な図書館運営の方向性を検討した。

また、第4次日野市子ども読書活動推進計画に基づいて、令和5年度事業を進めてきた。子ども読書にかかわるボランティア団体との懇談会を4年ぶりに開催し、この期間にどのような活動をしてきたかの情報交換を行った。学校での電子図書館の利活用など新しいサービスが開始される予定であることや周辺自治体でも期間を延ばしている状況があることなどを踏まえ、現行の計画期間を1年延伸し、令和7年度に次期計画策定を行うこととした。

【社会教育施設（一部）個別施設計画の策定】

本計画は、日野市公共施設等総合管理計画に基づき、図書館、公民館を対象として、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うための実施計画として令和6年3月に策定した。老朽化のすすむ図書館施設について今後目指すべき姿を示すとともに、今後50年の改修・更新費用の試算額が59.6億円と試算され、対策を講じない場合の試算額72億円を12.4億円下回った。

中央図書館の建物は開館50周年を迎えた。日本の図書館建築のモデルとなった建物としてその歴史的意義を次世代へ継承しつつ長寿命化を図っていく必要がある。

高幡図書館と日野図書館については長寿命化が困難との判定結果となった。今後公共施設の総量縮減を踏まえ、周辺施設との複合化にて更新を目指すとなるが、日野は今後5年から10年、高幡は20年の建物使用用途となる見通しであるため、利用者等の意見も聞きながら建物を安全安心に利用できるよう計画的な維持管理が課題となっている。

各事業における図書館の自己評価は、次ページ以降の評価表のとおりである。

7 令和5年度主要事業／第4次日野市立図書館基本計画の取組内容

○ 取組内容目次

令和5年度主要な取組（主要事業）	16
1. 第4次図書館基本計画の推進	16
2. 社会教育施設（一部）個別施設計画の策定	18
第4次図書館基本計画に基づく令和5年度重点項目	20
1. 現在および未来の市民が求める資料・情報を収集・提供・保存します	
（1-1-②）地域・行政資料の収集・提供・保存	20
（1-1-③）デジタルアーカイブの構築	22
（1-2-③）レファレンスサービス・読書相談サービスの充実	24
2. 本・人・地域をむすび、地域の文化を支える拠点となる図書館をめざします	
（2-1-③）地域館ごとの取り組みの充実	25
（1）高幡図書館	25
（2）日野図書館	27
（3）多摩平図書館	30
（4）平山図書館	32
（5）百草図書館	34
（6）市政図書室	36
（7）移動図書館「ひまわり号」	38
（8）中央図書館	41
3. だれもが利用しやすく、魅力のある図書館をめざします	
（3-1-①）第4次日野市子ども読書活動推進計画の推進	43
（3-2-②）図書館の利用に障害がある方の読書環境の整備	55
（3-3-①）だれでも気軽に立ち寄れる雰囲気づくり	58
4. 市民が本・情報と出あい、発見する環境や機会を創出します	
（4-1-③）読書体験の共有・発信	60
（4-1-④）電子図書館サービスの導入検討	62
（4-2-①）本や読書などの魅力を伝えるイベント・企画などの開催	64
5. 図書館の魅力や活動を市民に広めていきます	
（5-1-②）双方向によるコミュニケーションの充実	66
（5-2-①）図書館の利活用や来館につながるようなサービスの普及・啓発	67
6. 市民とともに歩んでいける持続可能な図書館の運営体制を整備します	
（6-1-①）図書館におけるDXのあり方の検討	69
（6-1-②）施設の老朽化対策・防災安全対策の推進	70
（6-3-①）職員研修の充実と職員の育成	72

令和5年度主要な取組（主要事業）

事業項目	1 第4次日野市立図書館基本計画の推進
事業の概要	すべての市民それぞれのくらしに図書館が空気のようにあたりまえに存在するよう、基本理念「くらしの中に図書館を ～地域に根ざした『知のひろば』が本と人との『わ』をつくる ～」の実現をめざし、次の6つの基本方針をもとに、施策の推進を図る。 1. 現在および未来の市民が求める資料・情報を収集・提供・保存します 2. 本・人・地域をむすび、地域の文化を支える拠点となる図書館をめざします 3. だれもが利用しやすく、魅力のある図書館をめざします 4. 市民が本・情報と出あい、発見する環境や機会を創出します 5. 図書館の魅力や活動を市民に広めていきます 6. 市民とともに歩んでいける持続可能な図書館の運営体制を整備します
事業の成果	【成果】 ● デジタルアーカイブの構築・・・昭和期や平成期の市刊行物のデジタル化を進め、『日野町誌』『市議会だより』などを追加した。また、令和期の資料についても追加・公開することができ、公開件数は1,163件となった(令和6年3月31日現在)。 ● レファレンスサービス・読書相談サービスの充実・・・図書館報「ひろば」2024年3月号に「レファレンス室だより」を掲載、地域資料のミニ展示を月ごとにテーマを替えて実施するなどレファレンスサービスのPRを実施した。 ● 地域館ごとの取り組みの充実・・・ひまわり号を含め、各館で庁内他部署から依頼されたテーマの本の展示・貸出を行うなど、連携を深めた。また、それぞれ近隣の児童関連施設などとも本の貸し出しやおはなし回を実施するなど交流し、子どもたちに本を楽しんでもらうことができた。また、中央図書館では「中央図書館開館50周年展示事業」として、関連の本や当時の写真などを展示し、地域の人々に懐かしんでもらうことができた。 ● 子ども読書活動の推進・・・「第4次日野市子ども読書推進計画」に基づき、乳幼児から大学生世代までの子ども(とその保護者)に対して様々な事業を展開することができた。特に平成27年度から継続して実施している「小学生・中学生の読書調査」では詳細な報告書を提出することができた。 ● 図書館の利用に障害がある方の読書環境の整備・・・視覚に障害がある方への資料朗読やスマートフォンなどの操作指導や、図書の音訳、対面朗読、録音図書(DAISY 図書)作成、点字図書作成などを行った。特に、ボランティアを介して本の宅配サービスを実施し、のべ49回138冊の貸出があった。 ● 電子図書館サービス(電子書籍)の導入の検討・・・各社のサービス内容等の調査・研究、先進自治体への視察を行った。交付金の申請を進めるなど、令和6年度からのサービス開始へ向けての準備ができた。

- 本や読書などの魅力を伝えるイベント・企画の開催(実施)・・・成人向けの「読書会」(連続5回講座)を実施、のべ45人が参加、参加者からは、「とても貴重な時間を過ごすことができた。また、自分では気がつかない視点から作品を読み込むことができてよかった。」などの感想があった。小学生向けには「たかはたブッククラブ」を実施、のべ46人が参加し、図書館や本の世界を楽しんでもらうことができた。また、「中学生と作家の交流事業」として、作家・脚本家の宇山佳佑氏をお招きし、講演会を開催した。中学生を含め48人が参加、うち10人の中学生が企画運営から参加して作家との交流を深め、読書に親しんでもらうことができた。
- 図書館ホームページで、図書館の利活用や来館につながるようなサービスの普及・啓発・・・子どものページにおすすめの本の紹介や企画のおしらせなど、これまでより頻繁に情報の更新を行った。また、ナクソス・ミュージック・ライブラリー「月刊クラシック通信」を毎月掲載し、利用を促進することができた。
- 図書館におけるDXのあり方の検討・・・図書館電算システム更新の検討、令和6年度の契約に向けた準備ができた
- 施設の老朽化対策・防災安全対策の推進として、「日野市社会教育施設(一部)個別施設計画」を策定した。
- 職員研修の充実と職員の育成・・・若手職員には積極的に外部研修に参加してもらった。図書館内では、2月に障害者サービスとレファレンスの基本的な研修を実施し、16人の職員が参加し、基礎的知識を習得することができた。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 今後も本計画に基づき、継続して施策・事業を実施し、基本理念の実現に向けて一歩ずつ前進していく。
- ・ 引き続き、市民に、計画の内容も含めて図書館の活動をもっと知ってもらうよう努力していく。
- ・ 令和6年度に電子図書館サービス(電子書籍)が導入されるので、より一層市民の読書や図書館に対する期待が増えると思われる。紙の図書と電子書籍のそれぞれよいところをうまく利用し、市民が図書館を利用しやすい環境を整えることが必要になってくる。

【改善策】

- ・ 職員が取り組む具体的な内容を検討・精査し、着実に実施していく。

事業項目 2 「社会教育施設(一部)個別施設計画」の策定
事業の概要
日野市公共施設等総合管理計画において定められた公共施設の総量縮減を踏まえ、本市の図書館・公民館について、「学びの場」として社会教育施設の機能を満たし、安全な施設利用を持続的に提供していくことを目的に、施設の現状等を整理し、施設のあり方検討を行い、今後の改修・更新等費用の縮減および平準化を実現する施設整備の具体的方針・計画を示した個別施設計画を策定した。 日野市においても、多くの建物や設備の改修、建替えが集中的に発生し、市の財政の負担となることが懸念されている。このような中で、引き続き市民が安全かつ快適に公共施設を利用できるよう、公共施設配置の最適化を図り、効果的かつ効率的な整備と管理運営についての方針を示す「日野市公共施設等総合管理計画」を平成29(2017)年3月に策定し、令和5(2023)年3月に改訂を行っている。 この総合管理計画では、基本的な方針等に基づき、個別施設ごとの更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うための実施計画を策定することとなっている。 「社会教育施設(一部)個別施設計画」は、図書館、公民館を対象とした実施計画である。
事業の成果
● 利用状況・コストのデータから施設機能面についての定量評価、耐震状況・劣化状況に基づく長寿命化判定、さらに27モデル地区内での再配置方針を考慮して、図書館4館、公民館1館の今後の施設の方向性を示すことができた。 ● 図書館、公民館の今後目指すべき姿を示すことができた。 ● 施設の目標使用年数を、予防保全による維持管理等により、60年から80年とした。このことにより、今後50年の改修・更新費用の試算額は総額 59.6 億円となり、対策を講じない場合の試算額72億円を12.4億円下回った。
事業の課題と改善策
【課題】 ・ 計画の着実な進行 ・ 予算の確保とロードマップに示された改修・修繕の実施 計画のロードマップによると、令和7年度に中央図書館と平山季重ふれあい館の屋上屋根、外壁、内部仕上、機械設備の修繕を行うこととしている。これは、法定点検結果による修繕等を行うものである。この予算を確保し、修繕を実施していかなければならない。 ・ 日野図書館の更新(複合化) 日野図書館は、すでに標準的な使用年数である60年を経過していることもあり、計画では長寿命化は行わず、日野本町周辺地区の公共施設との複合化を目指すこととし、ロードマップでは令和10年・11年に複合化施設として建物を更新することとしている。更新にあたって、利用者から親しまれている現在の雰囲気や、立地条件、駐車場を希望する利用者の声等を踏まえつつ、主要利用層である子育て世代や高齢者が利用しやすく、居心地の良い施設整備を目指すために、どの公共施設との複合化を行うか、新たな図書館のコンセプト等の検討が課題となる。

【改善策】

・ 10年に一度の計画の見直し

計画期間が29年であることから、10年ごとの計画の見直しを行うこととしている。10年間に実施した内容を検証しつつ、建物の状況や社会情勢等の変化に対応するため、必要な見直しを行う。

第4次日野市立図書館基本計画の取組

事業項目	1-1-② 地域・行政資料の収集・提供・保存
事業の概要	■ 日野市、市内の機関・団体、在住者などが作成したもの、また、これらについて記載された図書、雑誌、パンフレット、チラシなどの地域・行政資料を確実に収集・保存する。そのために、市役所内の関係部署との連携を図るとともに、市内の団体・サークルなどに協力を求める。 ■ 各地域館では、地域館周辺の地域の地理・歴史、自然、観光などに関する資料の収集に努める。 ■ 地域・行政資料の存在を利用者に周知するとともに、利用しやすい書架づくりを行う。 ■ マイクロフィルム(新聞・多摩版)の適切な保存について検討する。
事業の成果	【高幡図書館】 ○ 新選組のふるさと歴史館、郷土資料館と連携し、「戦後の高幡とハイキング」をテーマに関連図書の展示・貸出と、2階ギャラリーでのパネル展示を行った(11月1日(水)～30日(木))。 ○ 1階に掲示スペースを作り、2階の読書会室利用団体等のお知らせ・会員募集のコーナーを新たに設置した。 【日野図書館】 ○ 新選組コーナーの資料の収集を継続した。「新選組を読む・調べるために」を改訂し、図書館ホームページに掲載している情報を逐一更新した。 【多摩平図書館】 ○ 市内サークルが発行している隔月刊の雑誌「暦日」の寄贈を受け、6号分収集した。 ○ 多摩平団地に関するパスファインダー「多摩平団地コーナーのご案内」を作成し、配布した。(8月～) ○ 図書館所蔵の資料のうち、多摩平団地に関する記述がある資料13冊を、多摩平団地コーナーに移し、コーナーの充実を図った。 【平山図書館】 ○ 地域に関する情報である「京王平山まちづくり協議会ニュース」「平山台健康・市民支援センターたより」「平山さつき会だより」を収集・提供した。 ○ 「平家物語」「吾妻鑑」等に関する資料の新刊情報に注視し、「平山季重関係資料コーナー」に新刊を2冊追加した。 【市政図書室】 ○ 6月に庁内各課に対し刊行情報の調査・提供依頼を行い、新たに収集した市刊行物のデータを図書館ホームページの「地域・行政資料デジタル」に7月14日(金)以降、87件追加した。 事業項目1-1-③ デジタルアーカイブの構築を参照

- 市制施行60周年記念「市制施行と周年記念事業」の情報コーナーを設置し、6月1日(木)から9月30日(土)まで、月替わりで関連資料を展示した。
- 異聖歌と新美南吉の交流をテーマにした資料展示を10月2日(月)から30日(月)まで開催した。
- 「異聖歌没後50年記念 日野市・紫波町連携事業」に参加し、資料展示「日野市と紫波町の架け橋 詩人 異聖歌の生涯」を、12月1日(金)から1月31日(水)まで紫波町図書館と連携し同時開催した。
- 「市制施行と周年記念行事」、「日野市と紫波町の架け橋 詩人 異聖歌の生涯」の資料展示の様子を図書館ホームページや「資料のひろば」の特集記事で紹介した。
- 市の予算書・決算書の書架を見直し、探しやすくなるよう整理した。

【百草図書館】

- 三沢中地区アクションプラン会議(み組)、落川交流センター実行委員会から提供されたポスター等を地域の情報として1階ギャラリーに掲示した。
- 百草地域関連資料のリストを図書館ホームページで公開した。

【中央図書館】

- レファレンス室で、地域資料のミニ展示を月ごとにテーマを替えて行った。17%の資料が貸出された。
- 市民資料室と並行して書庫の整理を行った。保存する資料を精査し、収まりきれていなかった資料をすぐに探せるよう配架した。
- 朝日・産経・東京・毎日・読売新聞の各地方版(東京版・多摩版)のマイクロフィルムを保存するためのマイクロフィルムキャビネットを追加した。このことで、縮刷版ではカバーできない地方版の収集を継続していく目途がたった。今後15年分の保管場所を確保することができた。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 引き続き、電子データを含む地域・行政資料の収集・提供・保存。

【改善策】

- ・ 引き続き、日野市、市内の機関・団体、在住者等が作成した資料、またこれらについて記載された図書、雑誌、パンフレット、チラシ等の地域・行政資料を積極的に収集し、提供していく。また、展示の実施、レファレンス事例集への掲載を通して広く紹介する。

事業項目	1-1-③ デジタルアーカイブの構築
事業の概要	■ 日野市のあゆみを伝える貴重な資料である地域・行政資料を将来に残すため、また、より多くの方に利用してもらうために、デジタル化した地域・行政資料を図書館ホームページで公開する。 ■ 令和2年度に実施した昭和期の日野市刊行物のデジタル化に続く取り組みとして、令和3年度には平成期前半の日野市刊行物をデジタル化した。 ■ 令和4年度からは、市の「政策課題連携枠事業」に「(仮称)デジタルアーカイブ日野構築」を提案し採択されたため、図書館とふるさと文化財課の共同事業として、令和8年度までの5年計画で取り組んでいく。
事業の成果	■ 令和5年度は、令和4年度にデジタル化した歴史的公文書を1点ずつ個人情報掲載の有無等の確認作業を行った。 ■ 令和6年3月に、図書館ホームページの「地域・行政資料デジタル」に新たに「歴史的公文書」のバナーを設け、第一弾として公開が可能な公文書13点を掲載した(ふるさと文化財課のホームページの「日野市歴史的公文書公開データベース」にリンク)。 同時に、日野市公式ホームページの「日野市の取り組み」にも掲載し、アクセスできるようにした。 ■ 令和6年度のデジタル化予算確保を目指し、公益財団法人図書館振興財団の2024年度振興助成に図書館とふるさと文化財課が共同事業として応募し、助成金 4,072,464 円が決定した。合わせて、政策課題連携枠での予算 3,000,000 円も確保した。 * 予算の管轄はふるさと文化財課 ■ 「地域・行政資料デジタル」内に令和5年7月14日以降新たに87点の資料を追加した。昭和・平成期の『日野町誌』、『市税概要』、『市議会だより』のほか、令和期の資料についても追加・公開した。令和6年3月31日現在の公開件数は1,169 点となった。
事業の課題と改善策	【課題】 ・ 歴史的公文書を公開するには、デジタル化した公文書の個人情報等の掲載の有無をすべて確認する作業が必要となる。 ・ ふるさと文化財課が 旧七生村行政文書の整理を進めているが、デジタル化に未着手の分が約70箱残っている。旧日野町の行政文書もデジタル化していく計画なので、今後もデジタル化する予算の獲得が必要となる。 ・ ペーパーレス化が進む平成期後半からの各課資料、刊行物等のPDFデータの確実な収集。 【改善策】 ・ 個人情報等の確認は、ふるさと文化財課や議会事務局、総務課と連携し行う。 ・ デジタル化の新たな予算獲得に、政策課題連携枠予算の活用だけでなく、デジタル田園都市国家構想推進交付金等の活用の可能性を調査研究する。 ・ 日野市の公文書管理制度の中で、歴史的公文書の選別・保存・活用の仕組み作りについて、図書館・ふ

るさと文化課・総務課で協議を進める。

- ・ペーパーレス化した市刊行物を確実に収集し、可能なものは公開できるよう、各課への依頼・照会の方法を確立し、市政図書室の役割と資料提供のルールについてさらに周知を図る。

事業項目	1-2-③ レファレンスサービス・読書相談サービスの充実
事業の概要	■ 市民が自ら調べ、学習し、課題を解決するために、レファレンス資料の充実を図る。 ■ 特定のテーマや課題について、資料や情報を探すための手引きとなるパスファインダーの作成に取り組む。各地域館では、地域に関連のあるパスファインダーを作成する。 ■ 様々な機会を使ってレファレンスサービス・読書案内をPRする。 ■ ホームページの内容の追加・更新を行う。
事業の成果	■ レファレンス資料の充実 中央図書館レファレンス室では、辞書、辞典、地図等の資料を新たに約200点購入した。あわせて蔵書点検を通して不明資料を洗い出し、必要に応じて補充を行った。また、受けた問い合わせはすべて記録し、資料購入の際には、それらを参考に問い合わせの多い分野や主題の資料を積極的に収集した。 ■ パスファインダーの作成 多摩平図書館で「多摩平団地コーナーのご案内」、百草図書館で「しらべようひの」(児童用)、市政図書館で「市政図書館で新聞記事を調べる」をテーマにしたパスファインダーを作成し、配布・設置した。 ■ レファレンスサービス・読書案内のPR ○ 図書館報「ひろば」2024年3月号に掲載した「レファレンス室だより」で、国立国会図書館デジタルコレクションを取り上げた。あわせて同記事をレファレンス室内に掲示し、利用を促した。令和5年度のオンラインデータベース利用回数は全館でのべ169回で、前年比20回増であった。 ○ 中央図書館レファレンス室で、地域資料のミニ展示を月ごとにテーマを替えて行ったほか、中央図書館(1階)の3月のテーマ展示で「レファレンス」を取り上げ、一部貸出禁止資料も貸出し、PRに務めた。64冊の資料がすべて最低1回、のべ100回貸し出された。 ■ ホームページの内容の追加・更新 「市制施行と周年記念事業」の展示資料リストを作成し、図書館ホームページの「日野市についてよくある質問(レファレンス事例集)」に追加した。
事業の課題と改善策	【課題】 ・ レファレンスサービスの充実。 【改善策】 ・ 市民がレファレンスサービスを身近に感じ、利用してみようと思えるような取り組みとして、地域資料に限らないレファレンス事例、テーマ資料リストのホームページでの紹介を検討する。そのための準備として、国立国会図書館レファレンス共同データベースに事例の蓄積を始める。 ・ 中央図書館1階にレファレンス室への案内、地域資料のミニ展示の紹介を掲示し、利用を促す。

事業項目	2-1-③ 地域館ごとの取り組みの充実 (1)高幡図書館
事業の概要	特性を活かした地域館の取り組みの充実。 ■ 若い世代の活発な読書活動を支援します ■ 七生地域の文化活動を支える拠点となります ■ 人と地域の交流により地域の活性化を促します ■ 利用者の高齢化にも対応し、幅広い年齢層にとって利用しやすい図書館をめざします
事業の成果	■ 若い世代の活発な読書活動を支援します ○ 高幡図書館を「ヤングスタッフ」の活動の拠点とし、若い世代の読書活動を支援した。 「ヤングスタッフ事業」については、事業項目 3-1-①-(4)を参照 ○ 小学生を対象とした「たかはたブッククラブ」の充実 令和5年度は、連続した3か月を1期として全3期を実施し、(第1期5～7月、第2期9～11月、第3期1～3月) 延べ46名の参加があった。継続しての参加者もあった。 ○ 子どもからの発信を活かした展示を以下のように行った。 ・ 中学生の職場体験時に同世代へのおすすめ本のPOPを作成してもらい、本と一緒に展示した。 11名の生徒が思い思いの本の紹介文を作成してくれた。 ・ 七生緑小学校の6年生が、高幡図書館の見学をし、それをもとに作成した高幡図書館の紹介ポスター(おすすめ本も掲載)を児童室に掲示した。 ・ たかはたブッククラブでも、お気に入り本の紹介POPを作成した。 ■ 七生地域の文化活動を支える拠点となります ○ 地域の情報発信センターとして、地域情報となるポスター、チラシ、配布物を収集し、掲示した。 ○ 市政60周年記念のマンホールカード(高幡不動駅前に設置されたマンホール)の配布を12月15日(金)より開始、あわせて翌1月にはマンホール関連資料の展示も行った。 ○ 11月には、新選組のふるさと歴史館、郷土資料館と連携し、「戦後の高幡とハイキング」をテーマに、関連図書とパネルの展示を行い、七生地域の歴史を紹介した。 ■ 人と地域の交流により地域の活性化を促します ○ 1階に掲示スペースを作り、2階の読書会室利用団体等のお知らせ・会員募集のコーナーを新たに設置した。 ○ 例年通り「日野まちゼミ」関連図書(図書館職員による選書)の展示を行い、「日野まちゼミ」をPRし、地域の活動を支援した。(令和5年度は10～11月に実施した) ■ 利用者の高齢化にも対応し、幅広い年齢層にとって利用しやすい図書館をめざします ○ 大活字本20冊を購入、拡大写本(一般社団法人霞会館が制作したより活字の大きな本)の一部を多

摩平図書館より移管し、30冊配架した。

- 1階の窓側に閲覧用の長い机を1本、椅子を2脚、カウンター付近に小机1台(荷物の整理用)を増設した。特に閲覧机について高齢者から「新聞を広げて見られるスペースができてよかった」という声をいただいた。
- テーマ展示では、展示期間に他館の資料を紹介できるという利点があり、特に、インターネット環境を使う機会の少ない高齢者世代の方から「いろいろな本がここでみられてうれしい」「いつも見ない本がみられるのでテーマ展示を楽しみにしている」等好評の声をいただいた。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 地域にかかわる資料の整理、利用者への案内が不足している。
- ・ 若い世代に向けた取り組みをもっと充実させる。
- ・ 高齢者はもとよりすべての年齢層にとって利用しやすい図書館をめざす。

【改善策】

- ・ 図書館と地域の暮らしが繋がっていることを他部署との連携を通じてPRする。令和5年度に実施した郷土資料館との共催展示「戦後の高幡とハイキング 地域の今・昔」ではギャラリーに展示した郷土資料館のパネルと、1階の図書館資料の展示との連携がうまく図れ、地域の歴史に興味を持つ方、また初めて歴史に触れる方からも好評の言葉をいただくことができた。引き続き、郷土資料館をはじめとした他部署との協働展示を行い自館所蔵の地域に関する資料の把握・補充に努める。
- ・ 職場体験や夏休みジュニアスタッフ、ボランティア活動の一環として図書館に来館した子どもたちに、「おすすめ本の紹介・POP作り」を担ってもらってきたが「図書館の大切な仕事の一つとしての図書の展示」という側面をもっと強調し、これまで以上に充実したものとする。自らが紹介した本が貸出されることにより得られる達成感・満足感を味わってもらい、継続した図書館利用へとつなげていく。
- ・ 「たかはたブッククラブ」については、子どもたちが主体的に本と関われるようなプログラムが必要である。引き続き、参加する子どもの年齢にあい、主体的に本と関わっていけるようなプログラムを実施する。このことにより、他の地域館での小学生へのサービス内容の参考にする。
- ・ 特に、高齢者や身体の不自由な方、乳幼児連れの方などが図書館の利用に不自由がないように 閲覧席の補充や荷物台(図書館から借りた本の整理目的)の設置など、できるところから改善する。

事業項目	2-1-③ 地域館ごとの取り組みの充実 (2)日野図書館
事業の概要	特性を活かした地域館の取り組みの充実。 ■ 親子連れ、高齢者に寄り添います ■ まちの情報センターとして、地域情報の収集・発信を行います ■ 地域づくりに関する活動を支援します ■ まちのアンテナとしての日野宿発見隊をサポートします
事業の成果	■ 親子連れ、高齢者に寄り添います ○ 親子へのサービス 児童室に「よんでみませんか」コーナーを作り、ノンフィクションの児童書を表紙が見えるように配架した。年間約50冊を展示・貸出した。季節や時事に合わせた本はよく利用されたので、コーナーが空にならないよう補充に努めた。 ○ 本の福袋 今年度で4回目の企画として、1月におすすめの本3冊を中身がわからないように袋に入れ、「本の福袋」(対象:大人)と題して20袋用意した。事前に図書館ホームページで広報した。年末には、「今度もやりますか?」と期待の声が届いた。福袋を利用した方からは、「3冊の本に関連性がある面白かった」などの感想をいただいた。2袋目を借りる方もいた。 ○ 季節感のある装飾と地域の方とともに取り組む敷地内の美化 絵本コーナーや新しい本コーナーで、ひなまつりなどの季節感のある装飾を行った。夏にはふうせんかずらを窓辺につたわせ、涼しさを演出した。秋には収穫した種をおはなし会の時などに子どもに配った。駐車場内の花壇に草花を植え、手入れした。隣家の方が、駐車場の樹木を剪定してくださり、美化につながった。 ■ まちの情報センターとして、地域情報の収集・発信を行います ○ 「市政のお知らせ」コーナーに装飾を加え、目立たせた。 ○ 定期的に日野宿交流館に足を運び、配布物や商品を確認した。図書館利用者へ日野宿交流館を案内できた。 ○ 新選組コーナーの資料の収集を継続した。「新選組を読む・調べるために」を改訂し、図書館ホームページに掲載してある情報を逐一更新した。 ■ 地域づくりに関する活動を支援します 中央公民館やひの児童館など地域の施設の職員が集う「ご近所会議」で月1回情報交換を行った。このことで、地域の施設間で協力体制が築かれ、継続して以下の連携事業に円滑に取り組むことができた。 ○ ひなまつりの時季に、中央公民館の事業に協力し、つるし雛を日野図書館館内に飾った。

- 日野図書館おすすめ本コーナーをひの児童館に設置し、月替わりで約20冊の児童書を置いてもらった。ひの児童館の職員から、よく利用されていると報告を受けた。
- リサイクル雑誌12冊を、ひの児童館で再活用してもらった。
- ひの児童館のイベント「ひのっこあつまれ！まつり」(5月28日(日))にスタッフとして参加した。リサイクル品頒布を担当し、地域の方と交流できた。

■ まちのアンテナとしての日野宿発見隊をサポートします

まちのアンテナとして活動する日野宿発見隊を支援し、まちの魅力を発信している。令和5年度は日野宿発見隊とともに、以下の活動に取り組んだ。

- 「スタンプラリーin日野宿2023」を5月13日(土)に開催した。日野煉瓦橋、日野銀行跡など日野宿の見どころに設置した直径約10cmの手彫りの特製大型スタンプを押しながら日野宿を巡り、その魅力を発見してもらうもの。雨天にも関わらず、市内外からおよそ800名の参加者があり、日野宿散策を楽しんでもらった。スタンプ帳頒布数は277冊だった。また、ボランティアとして、地域の方をはじめ、日野第一中、大坂上中、日野高校、日野台高校の生徒有志や近隣の大学生、東京日野国際学院の学生など175名の協力を得た。
- 新東光寺地区センター前の用水で生き物を捕り、観察する企画「夏休み！親子で調べよう日野用水」を7月22日(土)に実施した。子ども17名、保護者13名が参加した。
- 令和4年まで中止していた八坂神社の例大祭が開催されるのに合わせ、「八坂の祭り写真展」を9月1日～30日に実施した。合計83点の写真パネルを玉垣等に展示した。宮司さんから写真展が好評だったと報告を受けた。
- 今回で3回目となる「行灯をつくろう」を12月16日(土)に実施した。親子連れ4組9名の参加があった。親子でひとつの行灯作りに取り組んだ。近所の普門寺の協力を得て、作成した行灯を境内などで灯し、地域の方々と雰囲気を楽しむことができた。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 各展示コーナーや面出し書架に置く資料はよく手に取られ貸出につながるが、それだけに書架が空にならないように、細やかな配架への気配りが必要である。
- ・ 「市政のお知らせ」コーナーだけでなく、その他の情報についてもテーマや内容、関係施設ごとに分けるなどして、よりわかりやすい情報提供に努める。
- ・ 近隣の関連施設と更なる連携の強化を図る。各施設同士がイベント協力だけでなく、「日常的なこと」「小さな出来事」でも繋がり、関わりを持てる環境をつくる。
- ・ 日野宿発見隊活動におけるイベント開催時に対応する職員やサポート要員の確保が難しい。

【改善策】

- ・ テーマ展示を実施する際は他館所蔵の資料も活用して、事前にそのテーマに合わせた資料を十分に取り揃えておく。館内の巡回を頻繁に行い、書架の状況を常に確認する。
- ・ ラックや棚自体の置く位置など新たな場所の確保も含めて検討して見直しを行う。チラシは「イベント内

容」「関連施設」ごとにわけて配架してわかりやすくする。あわせてポスターの掲示方法、場所の見直しを行う。

- ・ 月一回の「日野宿周辺施設情報共有会議」(ご近所会議)を継続する。参加者を固定せず、若手からベテランまで様々な立場の職員が参加することで、これまでにない新しい発想から、新たな取り組みを検討する。また、日頃から行き来して近況報告するなど、“声の掛け合い行動”を積極的に行う。
- ・ 日野宿発見隊の月一回定例会(第四土曜日)を継続して情報共有を行う。また、隊員の増員に向けて「日野宿発見隊の活動」のPR方法を検討し、市民への周知を行う。なお、各イベントの開催においては大学連携事業等ですでにかかわりのある学校の担当者へ直接協力を依頼し人員を確保する。
- ・ 日野宿発見隊の活動については各イベント、事業の現状を把握(問題点の洗い出しなど)するとともに市立図書館の現在の職員体制も十分に考慮しながら「実施の有無」「時期・内容の見直し」を行う。

事業項目	2-1-③ 地域館ごとの取り組みの充実 (3)多摩平図書館
事業の概要	特性を活かした地域館の取り組みの充実。 ■ 子どもとその保護者の居場所を提供します ■ 本を通じ、周辺施設との交流を促進します ■ 幅広い年齢層のニーズに応えます
事業の成果	■ 子どもとその保護者の居場所を提供します 「乳幼児やその保護者の居場所になる図書館」を目指し、子どもたちが幼いころから図書館や本に親しめるよう、乳幼児連れの保護者の方が気兼ねなく来館できる時間「ひよこタイム」を継続して実施した。開始から5年たち、周知するためのお知らせ(掲示物)を更新することで、あらためて、利用者に認知してもらうことができた。 また、子育て支援関連資料や乳幼児向けの絵本などの蔵書のさらなる充実に努めた。 ■ 本を通じ、周辺施設との交流を促進します ○ 「子育て関連の公共施設等との連携」については、今年度も施設内の「地域子ども家庭支援センター多摩平」や「たまだいら児童館」からの依頼を受けて、絵本に関する講座に職員を講師として派遣した(4月20日(木)、10月4日(木))。また、逆に児童館の職員を招いて図書館でおたのしみ会「児童館の先生がやってきた」を実施した(3月8日(金))。このことにより、一層、施設内の他部署との連携を深めることができた。また、講座の講師を引き受けることで図書館職員としてスキルアップできた。 ○ 近隣保育園のおはなし会や図書館見学を実施・受入した(2園、4回)。また、9月には、日野第三小学校特別支援学級が来館し、図書館見学と本を楽しむ時間を実施した。近隣の小学校2校の、図書館業務についてのインタビューや施設見学を受け入れた。複合施設内だけでなく、近隣の複数の施設にも図書館を利用してもらうことができた。 ○ ほっとも多摩平(子どもの学習生活支援事業)へ出向いて、小中高校生に図書館紹介や11月のイベント「中学生と作家の交流事業」のPRを行った(10月13日(金))。職員の方とも地域の子どものたちの状況について情報交換するなど、交流することができた。 ○ 3月2日(土)に開催された「多摩平の森ふれあい館まつり」に参加し、リサイクル資料の頒布を行った。これにより、大勢の市民にリサイクル資料を有効に利用してもらうことができた。配布数は、雑誌が1,040冊、児童書が648冊、計1,688冊だった。 ○ 日野市多摩平の森産業連携センター「PlanT」との連携については、継続して毎月30冊ほどのビジネス関連書を貸し出し、PlanTの利用者に自由に閲覧してもらった。また、隔月でビジネス書新刊案内を作成し、配布を依頼した。ビジネス書新刊案内は、図書館ホームページからも見られるように工夫した。「PlanT」に月1回訪問し、情報交換をすることで、よりよい連携ができた。

■ 幅広い年齢層のニーズに応えます

- 子どもから大人まで幅広い世代を対象に、おすすめ本を募集し展示するなど、双方向での取り組みを推進した。例えば、秋の読書週間にあわせて「私のおすすめ本」を募集し(10月24日(火)～)、館内に掲示するとともにすすめられた本の展示を行った(11月1日(水)～30日(木))。一般向けと子ども向けの2枚の模造紙いっぱい集まり、利用者同士でおすすめの本を読みあうなど、読書を楽しんでもらうことができた。
- 多摩平団地に関する地域資料コーナーについては、引き続き資料を収集した。また、12月には、「多摩平図書館の近隣に住んでいた文学者たち」として、巽聖歌、伊藤整、田中冬二の3人の作品を紹介したテーマ展示を行い、彼らを身近に感じてもらうことができた。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 「おはなしの部屋」の雰囲気づくりに工夫の余地がある。絵本パックの開始に未着手である。乳幼児と保護者同士の交流の促進。
- ・ 館内の施設、周辺施設との連携の継続。
- ・ 本を通じた交流が生まれる大人世代向け企画の継続。

【改善策】

- ・ 「おはなしの部屋」の中に秘密基地のようなスペースを作るなどして、子どもと保護者が楽しく過ごせる居場所をつくる。絵本パックを開始できるか館内で検討する。おはなし会の後などに、乳幼児と保護者同士の交流が生まれる時があるが、そのような交流を促進する仕掛けを作る。
- ・ 日野市多摩平の森産業連携センター「PlanT」へ月替わりで貸し出すビジネス関連書について、表紙を見せて本を配置するなど、見せ方を工夫して新鮮さを保つ。定期的に情報交換をすることで、需要を探る。
- ・ 大人世代の方々から、本をおすすめしていただけるような新企画に取り組む。

事業項目 2-1-③ 地域館ごとの取り組みの充実 (4)平山図書館
事業の概要
特性を活かした地域館の取り組みの充実。 ■ 中高年の活躍を応援します ■ 複合施設の特徴を活かし、幅広い年齢層にアプローチします ■ 地域の情報センターとしての役割に努めます ■ 駅前立地を活かし、利用者のすそ野を広げます
事業の成果
■ 中高年の活躍を応援します ○ 雑誌入れ替えに際し、中高年利用者を想定したスポーツ、健康、ライフスタイル誌をあらたに購入した。よく利用されている。 ○ 実用書のテーマを設定し、季節にあわせて10冊程度まとめて紹介するなど展示の工夫をした。(例：入園・入学準備の袋もの、のどごしのいい料理、家庭菜園など) ○ 積極的に話題の本を紹介し、「映像化作品」「文学賞受賞作品」「著名人追悼」「著名人の生誕／没後100年」といった展示も、平山図書館以外の市内図書館で所蔵する資料を紹介するいい機会となった。 ○ 「闘病記コーナー」では、新刊を中心に10冊を購入した。内訳は「がん」3冊、「脳の病気」2冊、「こころの病気」2冊、「その他の病気」3冊。新刊以外でも随時所蔵館変更をして、書架の更新を図った。 ■ 複合施設の特徴を活かし、幅広い年齢層にアプローチします ○ 子育て広場「ぼっかぽか」において、月の第一木曜日の午前に出張おはなし会を実施した。おはなし会で紹介した本を令和5年度は43冊貸し出し、手遊びやわらべうたなどと一緒に絵本読み聞かせの魅力などを伝えた。 ○ 交流センターや子育て広場を利用する来館者にもご利用いただけるような選書・働きかけを行った。例えば、交流センターを使う絵画サークルの方を念頭に、参考となる資料を選書するなどした。また、子育て広場で出張おはなし会に出向いた際、平山図書館の0.1.2歳児向けおはなし会のPRに努め、また、絵本の魅力を伝えられるよう心がけた。 ○ ヤングケアラー関連資料の情報収集を行った。令和5年度末までに書籍・雑誌を84冊所蔵することができた。また、職員が「ヤングケアラー講演会～大切にしたい。家族のケアも、自分のことも。」(2月10日(土) ひの煉瓦ホール)に自主研修として参加して、ヤングケアラー問題の当事者、支援者、市の支援体制について理解を深め、研修内容を担当職員の間で情報共有した。 ○ 日野ヤングスタッフによる展示を2回にわたり紹介した(「緑色の本集めてみました」「実践女子大学常盤祭で展示した本」)。若い世代の選書する本に興味を持ってもらうことができた。また、ライトノベル文庫話題作の選書や所蔵館変更によるヤングコーナーの充実を図った。 ○ 夏休みジュニアスタッフや中学生職場体験の参加者におすすめの本を紹介してもらうPOP作りをしてもらった。紹介されていた本が貸し出しされた様子などを学校へお知らせした。また、展示の資料

を中心に興味を喚起するキャッチフレーズを110点以上付し、貸し出しに結び付けるように努めた。

■ 地域の情報センターとしての役割に努めます

- 地域資料「平山季重関係資料」として、新刊2冊を購入した。
- 郷土資料館によるパネル展「古代の謎に迫る～平山遺跡 大型四面廂建物跡～」を6月20日(火)から9月13日(水)まで実施した。地域で発見された遺跡についての展示は高い関心を呼び、図書館カウンターでも感想の声をいただいた。あわせて、平安時代が舞台の小説や平安時代に関する資料も展示して機運を盛り上げた。

ほかにも他課と連携した展示を実施し、地域の魅力の再発見や資料の貸し出しに結びつけることができた。

「七生丘陵散策コース 見晴らし台」(郷土資料館) 3月25日(土)～6月20日(火)

「童謡詩人 巽聖歌の活躍」(郷土資料館) 9月13日(水)～2月1日(木)

「あさかわ写真コンクール」(緑と清流課) 2月14日(水)～29日(木)

■ 駅前立地を活かし、利用者のすそ野を広げます

- フリーWi-Fi接続の問い合わせに対して、マニュアルを提供するなど接続設定ができるまで丁寧にサポートした。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 貸出冊数をコロナ禍以前の貸出冊数に戻していけるよう、展示棚等を充実させる。
- ・ 複合施設に係る部署との連携強化。または団体との連携方法の模索。平山交流センター、ブラウジング自習スペース・図書館は同じ建物にあるが、来館者はそれぞれ違う目的で施設を使っている。「平山地域の公共施設」としての役割について、考えを整理する。
- ・ マニュアル化の推進。
- ・ 図書館利用の「きっかけ」となるような、実用書、文庫小説、児童書、絵本や読物を中心とした蔵書構成を検討する。

【改善策】

- ・ ヤングケアラーに関する資料・情報のまとめを行っていく。ことばの認知も進んだ今日、市の施策にも事業等が反映されてきた。これまでのものを整理し、展示等の連携に結びつけるよう検討していく。
- ・ 引き続き、闘病記やがん情報等、中高年のニーズに合わせた健康・医療情報の収集・提供・広報を推進する。
- ・ 施設設備運用面において、徐々にコロナ禍以前の状態に遡ることができるよう、慎重に関係部署と調整しながら検討を進めていく。
- ・ 各資料の状態を見て、購入できるものは買い換えていく。

事業項目	2-1-③ 地域館ごとの取り組みの充実 (5)百草図書館
事業の概要	特性を活かした地域館の取り組みの充実。 ■ ゆったりと過ごしたくなる滞在型図書館をめざします ■ 百草里山地域の入口として、地域の情報を発信します ■ 本を通じた近隣施設・団体との連携を促進します
事業の成果	■ ゆったりと過ごしたくなる滞在型図書館をめざします ○ 令和5年8月より、児童室に靴を脱いで上げられる絨毯スペースを設置した。絨毯上にも絵本を置いていざない、親子連れや兄弟でくつろぐ姿が見られるようになった。令和6年2月より、水・木曜日の午前に「ひよこタイム」を設定し周知した。当該時間帯のBGMは子ども向けのものを流すようにするなど工夫し、使用したCDの貸出もあった。 ○ ジュニアスタッフの子どもたちの意見を取り入れ、2階が図書館であることが分かるようなポスターを1階入口付近に2か所、子ども向け図書館案内のポスターを階段踊り場に1か所掲示した。 ■ 百草里山地域の入口として、地域の情報を発信します 農園があるほか、農作業をされている方の多い地域であることを意識し、4月「種をまく、農作業を楽しもう」をテーマに61冊展示・貸出した。また、入り口近くに設置している百草地域関連資料、小島善太郎記念館関連資料コーナーについて、図書館ホームページのブックリストを更新した。 ■ 本を通じた近隣施設・団体との連携を促進します ○ 7月に子育て課と連携し、「日野市子ども条例」の啓発パネルを1階ギャラリーに掲示した。あわせて子どもの権利に関する資料52冊を、図書館内で展示・貸出した。 ○ みさわ児童館でひまわり号特別巡回イベントが2月2日(金)に行われることに向けて、百草図書館で乳幼児連れ親子のための事前利用登録・図書館利用案内を1月18日(木)に開催した。1組の親子と児童館職員の来館があった。参加者は少なかったが次の利用につながった。特別巡回イベント当日も、百草図書館PRちらしを配布した。みさわ児童館と連携が出来た。 ○ 介護付き老人ホーム・ボンセジュール日野への訪問は、コロナ禍で中止していたが、再開要望があり、年間5回、市職員と地域の方で読み聞かせに出向いた。その後施設として団体利用登録があり、施設職員が大型絵本や紙芝居など利用された。 ○ 10月6日(金)に三沢中ちよこっとボランティア(三沢中学校生徒によるボランティア体験)を10名受け入れた。POPを書いてもらい、本(10冊)とともにカウンター前に展示した。利用者の方に興味を持ってもらえ、すべての本が貸し出しされた。 ○ 地域の方が読書会やビブリオバトルのイベントを談話室にて年間5回企画・実施した。館内ポスター掲示等で、PRに協力した。地域の方同士の本を通じた交流が生まれた。

- 令和5年度は特別支援学級(七生緑小あおぞら学級と日野第八小たちばな学級)への団体貸出は児童が来館して選ぶ方式で行った。あおぞら学級の児童9名が年8回来館し、615冊を貸出した。たちばな学級は児童約12名が年3回来館し201冊貸出した。これにより、百草図書館における団体貸出数が増加し、令和5年度は1,723点が貸出された。(令和4年度1,425点)。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 1階ギャラリーの活用。
- ・ 書架表示・館内案内の更新。
- ・ 近隣子ども関連施設へのPR。

【改善策】

- ・ 百草里山地域の情報発信を含め、ふるさと文化財課の協力を得て、パネル展を行う。あわせて、ギャラリーの一般開放についてルールを再確認整理し、PRする。
- ・ 館内の書架表示や古い案内文を見やすく、わかりやすく更新する。
- ・ 図書館利用を促すため、近隣の幼稚園や商業施設に百草図書館およびおはなし会の年間予定が入ったチラシやポスターを配布し、PRに努める。

事業項目	2-1-③ 地域館ごとの取り組みの充実 (6)市政図書室
事業の概要	特性を活かした地域館の取り組みの充実。 ■ 市の施策をわかりやすく市民に伝えます ■ 地域の情報と市民をつなぐ窓口となります
事業の成果	■ 市の施策をわかりやすく市民に伝えます ○ 市内25の課から依頼された記事をデジタルサイネージで発信した(～12月28日(木))。発信した記事は、合計71件であった(令和4年度は25課、85件)。 ○ 姉妹都市・岩手県紫波町と定期的に刊行物を交換した。送付資料は、「広報ひの」「図書館報ひろば」「資料の広場(市政図書室新着図書案内)」「清流News」、受領資料は、「しわねっと(紫波町広報紙)」「紫波新聞」「紫波町図書館10周年記念誌」など。受領資料を「紫波町コーナー」に置くだけでなく展示にも活用したことで、紫波町の施策や文化を利用者に周知することができた。 ○ 「異聖歌没後50年記念 日野市・紫波町連携事業」に参加し、「日野市と紫波町の架け橋 詩人 異聖歌の生涯」と題した資料展示を、12月1日(金)から1月31日(水)まで、紫波町図書館との協同で同時開催した。市政図書室が収集した資料15冊と異聖歌の作品が多数掲載されている雑誌『赤い鳥』25冊を会期中、紫波町図書館に貸し出した。紫波町図書館からは、地元で刊行された異聖歌を顕彰する冊子や、親族が紫波町図書館に寄贈した異聖歌の手紙や写真のデータが提供され、親族の了解を得て、複製物を市政図書室で展示した。協同展示の同時開催により、図書館同士の連携をさらに深めることができた。市政図書室の展示では、普段来館されない方も展示を見に足を運んでくださった。 事業項目 1-1-② 地域・行政資料の収集・提供・保存 を参照 ■ 地域の情報を発信 ○ 市制施行60周年記念「市制施行と周年記念事業」の情報コーナーを設置し、6月1日(木)から9月30日(土)まで、月替わりで関連資料を展示した。資料展示の様子を図書館ホームページや「資料のひろば」の特集記事で紹介した。 ○ 「市政図書室で新聞記事を調べる」をテーマにしたパスファインダーを作成し、配布した。
事業の課題と改善策	【課題】 ・ 旧平山台小学校に日野市に関する資料(ポスター含む)を保存している。しかしいつまでも旧平山台小学校に置いておくこともできない。かなりの数の資料があるため、今後どのようにするのか検討が必要である。 ・ 市民が気軽に立ち寄ることができること、また、地域の情報を得られる場であることの認知度が低い。 【改善策】 ・ 資料の保存場所について、市の施設の中で使用可能な場所がないか、アンテナをはり書庫の確保に努

める。

- ・ 資料の保存については、ふるさと文化財課も同じ状況であるため、情報交換をし、連携しながら方向性を決めたい。
- ・ 市政図書室発行の「資料の広場」等の配布物や図書館ホームページでの情報発信を充実させ、市政図書室の蔵書やサービスの紹介の機会を増やす。

事業項目	2-1-③ 地域館ごとの取り組みの充実 (7)移動図書館「ひまわり号」												
事業の概要	特性を活かした地域館の取り組みの充実。 ■ 市内のどこでも図書館サービスを利用できるよう、建物の図書館を補完します ■ 地域住民の交流のきっかけとなる場をつくれます ■ 子どもたちが“身近に本とふれあえる場”をつくれます ■ より一層市民にとって親しみやすい図書館をめざします												
事業の成果	■ 市内のどこでも図書館サービスを利用できるよう、建物の図書館を補完します 21か所のサービスポイントを巡回し、個人貸出を行った。あわせて53の登録団体に定期的に団体貸出を行った。(保育園・幼稚園・学童クラブは年2回、七生病院は月1回) 【実績】 個人貸出 <table> <tr> <td>年間利用者数</td><td>3,884人 (4,164人)</td></tr> <tr> <td>貸出冊数</td><td>21,402冊 (24,348冊)</td></tr> <tr> <td>延べ巡回回数</td><td>470回 (418回)</td></tr> </table> 定期利用団体貸出 <table> <tr> <td>定期利用団体数</td><td>53団体(保育園、学童クラブ、病院) (令和4年度53団体)</td></tr> <tr> <td>貸出冊数</td><td>16,531冊 (15,993冊)</td></tr> <tr> <td>延べ巡回回数</td><td>114回 (114回)</td></tr> </table> ※()内は令和4年度の数値 利用者ニーズの把握として、個人貸出巡回先(21か所)の実利用者数の集計を引き続き行い、巡回の場所や時間などを見直し、検討を進めた。 ■ 地域住民の交流のきっかけとなる場をつくれます ○ 個人貸出巡回先では、巡回時に日程表のチラシを配布するなど巡回のPRを行った。 ○ 「旭が丘地区センター」で実施する絵本の読み聞かせは、室内換気を十分にするなど引き続き感染対策を取って実施した。 ○ 「旭が丘地区センター」「石田環境プラザ」の両施設内に250～300冊ほど常置している図書館資料の入れ替えを行なった。年2回、毎回約50～70冊、新刊本や季節に合わせた資料を配架した。 ○ 「石田環境プラザ」へは、リサイクル雑誌を昨年同様、要望に沿った分野のものを年間約200～250冊提供した。施設利用者層にあわせた資料を提供することで、多くの利用に閲覧されている。また、石田環境プラザでの新しい取り組みは利用者等と交流をする中で検討を進めている。 ■ 子どもたちが“身近に本とふれあえる場”をつくれます ○ 日野市発達・教育支援センター「エール」へのイベント巡回を実施した。施設を利用する子どもたち	年間利用者数	3,884人 (4,164人)	貸出冊数	21,402冊 (24,348冊)	延べ巡回回数	470回 (418回)	定期利用団体数	53団体(保育園、学童クラブ、病院) (令和4年度53団体)	貸出冊数	16,531冊 (15,993冊)	延べ巡回回数	114回 (114回)
年間利用者数	3,884人 (4,164人)												
貸出冊数	21,402冊 (24,348冊)												
延べ巡回回数	470回 (418回)												
定期利用団体数	53団体(保育園、学童クラブ、病院) (令和4年度53団体)												
貸出冊数	16,531冊 (15,993冊)												
延べ巡回回数	114回 (114回)												

に、より多くの本に親しむ機会を提供することができた(令和6年2月13日(火))。

- みさわ児童館にイベント巡回を実施し、図書の貸出しを行った。工作などは雨天で実施できなかったが、児童館利用者への「ひまわり号」のよいPRとなった(令和6年2月21日(水))。

■ より一層市民にとって親しみやすい図書館をめざします

- 「ひの新選組まつり2023」に参加した。新選組まつりは、令和5年5月13日(土)・14日(日)の2日間行われたが、ひまわり号は14日の日野宿会場に1日参加した。今回はひの児童館前に出展したこともあり、より多くの子どもたちに参加してもらうことができた。
- 実践女子大学の学園祭『常磐祭』に参加した(11月12日(日))。図書の貸出のほか、子ども向けの各種工作や写真展示などを行った。また、ひまわり号の運転席に乗って写真を撮れるようにし、子どもたちに好評だった。学園祭に参加することで、学生だけでなく、広く市民へPRすることができた。
- 「JAPAN MOBILITY SHOW2023」(10月28日(土)～11月5日(金))日野自動車株式会社の出展に協力した。ショーの開催期間中、日野自動車のブースにひまわり号が写真パネルで紹介され、日野市の図書館活動をPRする良い機会となった。
- 図書館報「ひろば」で毎号、巡回日程表を掲載した。また、各イベントへの参加状況や報告などを掲載して活動のPRを行った。
- 図書館ホームページには、巡回場所の地図や巡回日程などを掲載した。また、巡回中止の場合は「移動図書館からのお知らせ」として情報を即時掲載し、利用者に対してできるだけ早い周知を行った。
- 「寄合処ひの～アウトドアでワイルドに楽しむ！コーヒー焙煎&淹れ方講座～」(企画経営課)にコラボ参加した(3月17日(日))。会場では企画に合わせた資料の展示コーナーを設置し、イベントの参加者にも参考となる資料を提供し、多くの方に閲覧されていた。
- 今年度も「万願寺中央公園」の巡回時間にあわせて、「地域の居場所づくり、多世代交流の促進」を目的に中央公民館企画の「デリバリーカー」が出店して、市内の生産品を販売した。令和5年度は1回実施した(3月28日(木))。新たな連携についても検討を進めている。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 「移動図書館サービス」自体をより多くの市民に周知すること。
- ・ 市民が安心かつ安全に利用できるよう、早急な車両の更新。
- ・ 団体貸出における新規巡回希望団体への対応。
- ・ 個人巡回サービスを有効かつ効果的に実施するため、特に利用者が減少しているサービスポイントにおいては、巡回の廃止、PRによる利用者増を図り、引き続き巡回サービスの在り方を検討する。

【改善策】

- ・ 館報「ひろば」に定期的に活動状況を掲載する。また、市報「広報ひの」へ図書館特集の掲載依頼を行ない、移動図書館のPRを行なう。
- ・ 巡回スケジュールをホームページのお知らせで、毎週周知していく。
- ・ 庁内掲示板を活用した他部署へのPRを含めて、各媒体でより効果的なPR方法を検討して取り入れる。

- ・ 市内で実施されるイベントへは図書館の広告塔として積極的に参加する。
- ・ 市内大学へは引き続き市立図書館活動のPRを行なう。また、近隣大学の学園祭参加など、地域や地域内の各団体のイベントに移動図書館ひまわり号が参加していく。
- ・ 「移動図書館の今後のあり方」について、図書館全体で検討して決定する。
- ・ 移動図書館車両の現行仕様書の見直し作成。より早い実施に向けて取り組む。
- ・ 団体への「リクエストサービス」実施に向けて検討を進める。（奉仕係内の体制の見直しや職員用のマニュアルの作成、また、団体への周知方法の検討など）
- ・ 個人貸出は過去数年の利用実績から、巡回時間の見直しやサービスポイントの統廃合を検討するとともに、新規巡回場所の調査を行う。

事業項目	2-1-③ 地域館ごとの取り組みの充実 (8)中央図書館
事業の概要	特性を活かした地域館の取り組みの充実。 ■ だれもが気軽に立ち寄ることができ、交流のうまれる場所となります ■ 本が大好きな子どもを育てます ■ 豊富な蔵書を有し、市民を広い世界につなげるかけ橋となります ■ 地域館をサポートし、地域の文化を支えます
事業の成果	■ 誰もが気軽に立ち寄ることができ、交流の生まれる場所となります ・ 地域の交流拠点として、「日野ブランド」の一つである日野の農業について、ミニ展示を行った。 ・ 中央図書館開館50周年の記念展示を4月～5月に行い、ブックカバーの配布、50周年スタンプを来館者が記念に押せるようにした。 ・ 講演会「子育てと絵本」の関連企画で絵本作家・つがねちかこさんの原画展示をギャラリーにて行った。(6月27日(火)～7月16日(日)) 把握できただけでも市内市外から約60名の方が訪れ、つがねちかこさんへのあたたかいメッセージも寄せられた。展示した絵本も大変よく借りられた。 ■ 本が大好きな子どもを育てます ・ 職場体験やジュニアスタッフとして来館した子どもたちに、おすすめの本のPOPを作成してもらい、そのPOPとおすすめの本と一緒に展示をした。よく借りられた。 ・ 職場体験を受け入れた。 - 三沢中6名(7月6・7日(木・金))、平山中2名(8月31日・9月1日(木・金))、 - 大坂上中1名(9月5・6日(火・水))、日野四中2名(9月7・8日(木・金))、 - 日野二中2名(11月1日・2日(水・木)) ・ 総合学習に豊田小3年生16名を(11月2日(木)・9日(木))、まちたんけんに豊田小2年生14名を(10月17日(火))受け入れた。 ・ 生涯学習課主催の「ひのまなびのまつり2023」に出展し、中央図書館50周年にちなんだ展示と「ひまわり号」のぬりえや工作、「はらぺこあおむし」の工作を行った。(11月23日(木・祝)、多摩平の森ふれあい館) ■ 豊富な蔵書を有し、市民を広い世界につなげるかけ橋となります ・ 中央館として書評などに掲載された高額な図書の購入を行った。書庫資料の整理を集中的に行った。 ・ 古くなっていた書架案内図を更新した。 ・ ビジネス支援を充実させるため、都立図書館主催のビジネス情報研修に職員が参加し、その際ビジネス支援に有用と紹介された資料を、レファレンス室で購入した。また、研修のレジュメを職員全員に回覧し、情報共有を行った。 ・ メインテーマ展示として、7月に子育て課と「子ども条例」、10月にごみゼロ推進課と「食品ロス」に関する展示をそれぞれ協働で行った。

- ・ 8月に中央公民館、郷土資料館、中央図書館、平和と人権課と協働して、市内の平和事業を巡るイベント「日野市平和月間×スタンプラリー」を中央公民館主催で開催した。
- ・ 市役所各部署からのレファレンスは市政図書室を通したものの、直接のものも積極的に受けた。

■ 地域館をサポートし、地域の文化を支えます

- ・ 地域館から人的応援要請があったとき、シフトを調整し人的体制に取り組んだ。
- ・ 地域館で受けたレファレンスについても協力した(7件)。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 地域の交流拠点の役割として、十分ではない。
- ・ たくさんの子どもが本や図書館を好きになってくれるような仕組みづくり。
- ・ 庁内他部署からの本の展示の依頼が、夏休み期間に集中する傾向があり、すべてに応えきれない。
- ・ 豊富な蔵書を維持するためには十分な書庫が必要だが、書庫も満杯で除籍せざるを得ない。書庫をどう確保していくか。

【改善策】

- ・ 地域の交流の場所となるよう、豊田近辺の歴史や特長を市民にもっと知ってもらうような企画を検討し、実施する。
- ・ 職場体験やジュニアスタッフとして来館した子どもたちのおすすめの本はよく借りられるので、引き続き、無理のないようにPOPを作成してもらい、本と一緒に展示する。
- ・ 庁内他部署からの本の展示の依頼については、中央図書館1館に集中したり、時期が重なったりしないように地域館と分担して実施する。
- ・ 書庫を確保する努力を継続して行う。
- ・ 地域館は、所蔵するレファレンス資料が少ないため、引き続きレファレンスサービスの協力をしていく。

事業項目 3-1-① 第4次日野市子ども読書活動推進計画の推進 (1)第4次子ども読書活動推進計画の進行管理
事業の概要 ■ 関係各課の進捗状況の調査 未着手の部分を洗い出し、計画的に取り組めるようにするとともに、進捗状況を図書館協議会や教育委員に報告する。計画年度の見直し(令和7年度まで延長)について各課へ通知。 ■ 子どもの読書活動を推進することを目的としたイベントの実施。 ■ 子どもの読書に関するボランティア懇談会の実施。
事業の成果 ■ 関係各課の進捗状況 関係各課に対して、令和4年度の「第4次子ども読書活動推進計画」の進捗状況調査を行った。令和4年度の取組みについて、各課とも、感染症対策を十分にとり、活動を再開しているところが多かった。新型コロナウイルス感染症拡大による事業への影響や課題についても、特になかったと答える課も増えた。各課の取組み評価は概ね A～B 評価(A=実施状況 100% B=実施状況 70%以上)。 主な状況は以下の通り。 (保育園) 状況を見ながらボランティアによるおはなし会を再開、全体で 80 回実施した。 (発達・教育支援課) 移動図書館の利用は控えたが、子どもが手に取れるよう、待合スペースに子どもの興味や成長に合った本を設定して置いた。通園事業や就学前の小集団クラスなどで、絵本のよみかせを実施した。 (中央公民館) 「おとなの手作り絵本講座」を開催することで、本に関わる地域の人口を増やし、子どもの読書への理解を地域に広めることができた。 (ふるさと文化財課) 新選組のふるさと歴史館特別展「七生丘陵いま・むかし～ハイキングコースを歩く」、郷土資料館企画展「鎌倉殿の平山季重」「ひのっ子くらし展一文集からみた昭和の子どもの環境」を行うことで、地域に関する情報の普及・啓発を行った。 また、本計画について、第5次計画の策定に向けて準備期間を設けるため、計画年度を1年間延長し、令和7年度までとした。関係各課にも周知し、了承を得た。 ■ 子どもの読書活動を推進することを目的としたイベントの実施 6月25日(日)平山季重ふれあい館大ホールにて、市内在住の絵本作家つがねちかこさんの講演会「子育てと絵本」を開催した。子どもを含め約40人が参加した。自身の体験をもとに「絵本と子育て」「絵本製作の過程」などについてお話してもらった。全館で著作の展示・貸出、中央図書館2階ギャラリーで原画展を開催した。「子どもが好きな絵本作家さんで、なかなか見る機会のない原画を見ることができてうれしい、とても心が和む。」などの声もあり、子どもの読書活動の推進に繋げることができ

た。

■ 子どもの読書に関するボランティア懇談会の開催。

12月5日(火)多摩平の森ふれあい館集会室5にて、市内の「子どもの読書に関するボランティア懇談会」を開催し、10団体が集まった。対面ではコロナ禍以降4年ぶりの開催となり、その期間中どのような活動をしていたかなどの情報交換の場となった。また学校での読み聞かせをする人が足りない時どうしたらよいかなどの困りごとの共有と解決策なども話し合うことができた。図書館ホームページの内容も更新できた。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 計画年度を1年間延期し、令和7年度までと各課に周知したが、今後、どのように進めていくか。
- ・ 子どもの読書に関するボランティア懇談会のあり方の見直し。
- ・ 引き続き子どもと本を結びつける事業を行う。

【改善策】

- ・ 子ども読書活動推進計画を今後どのように策定していくのか、課題解決や進捗管理をしていくのか、各課と連携しながら進める。策定期間や計画のあり方を検討。引き続き関係各課への計画の進捗状況調査を実施する。
- ・ 令和5年度に再開した「子どもの読書に関するボランティア懇談会」で出た、テーマを決めて持ち寄った情報交換の場を整える。
- ・ 市内在住絵本作家、阿部結さんのワークショップを6月に開催する。子どもの読書活動の推進に繋げる。

事業項目 3-1-① 第4次日野市子ども読書活動推進計画の推進 (2)乳幼児へのサービス		
事業の概要		
第4次日野市子ども読書活動推進計画にも基づき、0歳児から就学前までの乳児・幼児および保護者の読書活動を推進する。		
事業の成果		
■ 図書館でのおはなし会の実施		
令和5年度は、新型コロナウイルス感染症対策を緩和して、飛沫防止用ビニールシートは設置せずに実施した。		
中央・高幡・多摩平・平山・百草図書館は、0・1・2歳の会を毎月実施した。(参加者0も含め)		
中央・高幡・多摩平・百草図書館は、3・4・5歳の会を毎月実施した。		
日野図書館は、年齢制限なしのおはなし会を毎月実施した。乳幼児が参加した会もあった。		
	開催した回数	参加者数
中央	012歳の会(毎月第4木曜日開催)：12回	乳幼児 71名
		大人 69名
	3歳～未就学児の会(毎月第2水曜日開催)：11回(注1)	幼児 26名
		大人 18名
高幡	012歳の会(毎月第1水曜日開催)：12回	乳幼児 81名
		大人 75名
	3歳～未就学児の会(毎月第1水曜日開催)：10回(注1)	幼児 34名
		大人 23名
日野	年齢制限なし(毎月第3水曜日開催)：12回	乳幼児 24名 大人 27名
多摩平	012歳の会(毎月第2木曜日開催)：13回(注2)	乳幼児 113名
		大人 110名
	3歳～未就学児の会(毎月第4水曜日開催)：12回	幼児 47名
		大人 42名
平山	012歳の会(毎月第3木曜日開催)：8回(注1)	乳幼児 16名 大人 16名
百草	012歳の会(毎月第3水曜日開催)：12回	乳幼児 38名
		大人 40名
	3歳～未就学児の会(毎月第3水曜日開催)：12回	幼児 29名
		大人 24名
(注1) 年間12回に満たないのは、参加者0のときがあったため		
(注2) 4月の日付を誤記して広報したため2回開催した。		

■ 出張おはなし会・他機関の講座への参加

他機関での乳幼児へ向けての行事に、図書館職員が出向いて、参加した。

- 平山図書館2階子育てひろば「ぽっかぽか」でのおはなし会（毎月第1木曜日開催）：12回
乳幼児 66名 大人 53名参加
- 子ども家庭支援センター多摩平「はぴはぴ」のミニ講座「絵本について」に講師として多摩平図書館から職員2名が参加した。 大人9名 乳幼児9名に、絵本の紹介をした（4月20日(木)）
- 子ども家庭支援センター万願寺のミニ講座「絵本について」に講師として高幡図書館から職員2名が参加した。 大人9名 乳幼児9名に、絵本の紹介をした（5月18日(木)）
- たまだいら児童館「すくすくくらぶ」の講座に多摩平図書館から職員2名が講師として参加した。 0歳児と保護者の4組に、絵本の紹介をした（10月4日(火)）

■ 「絵本のおたのしみ袋」の貸出

秋の読書週間にあわせて、「おたのしみ袋」の貸出をした。(11月2日(木)～) 令和4年度と同様に中身が見えないように紙袋に入れ、季節の絵本や、おすすめの本を3冊ずつ入れた。1月に実施した時よりも、幅広いテーマから本の選択ができた。今回も「いつもと違う絵本を見ることができてよかった」などの声があり、好評だった。紙袋に折り紙のプレゼントをつけた館もあり、各館でそれぞれ設置場所なども工夫したため、11月中には、全て貸出された。

作成したおたのしみ袋の数（各館の規模に合わせて作成）

- 中央・高幡・日野・平山・百草図書館
0・1・2歳向け福袋 3冊×10セット＝30冊
3・4・5歳向け福袋 3冊×10セット＝30冊
- 多摩平図書館
0・1・2歳向け福袋 3冊×20セット＝60冊
3・4・5歳向け福袋 3冊×20セット＝60冊

■ 絵本パックの貸出

短い来館時間で、乳幼児の保護者が手軽に絵本を選べるサービスを継続した。乳幼児のための絵本を選ぶのに悩んでいる方(祖父母の方など)から、「テーマごとの絵本をセットで借りられるので、手軽で便利」という声も多いので、継続して取り組んだ。絵本パックの絵本は、絵本パックを利用しない方も閲覧・予約できるように、複本を用意しセットしている。

中央図書館

令和3年度から引き続き37セット設置。令和5年度の貸出回数は、のべ234冊。

高幡図書館

令和4年度から6セット増やし12セット設置。令和5年度の貸出回数は、のべ144冊。

日野図書館

令和4年度から引き続き10セット設置。令和5年度の貸出回数は、のべ246冊。

平山図書館

令和4年度から引き続き13セット設置。新しいセットを4セット追加。高幡へ5セット送る。

令和5年度は、19セット設置。令和5年度の貸出回数は、のべ135冊。
 百草図書館
 5セットから19セット増やして24セット設置。令和5年度の貸出し回数は、のべ177冊。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ おはなし会の参加人数の確保。
- ・ 家でも本に親しむための、図書館ホームページコンテンツの検討。
- ・ 絵本パックや、おたのしみ袋の発展的継続。

【改善策】

- ・ おはなし会の年間予定を入れたチラシを作成する。
- ・ 乳幼児とその保護者向けの図書館利用促進チラシを作成し、健康課での乳幼児健診や図書館窓口で配布する。
- ・ 絵本パックの入替や、増冊。秋の季節に合わせたお楽しみ袋を作成する。

事業項目 3-1-① 第4次日野市子ども読書活動推進計画の推進 (3)小中学生へのサービス														
事業の概要														
■ 小中学生向け資料の充実。 ■ 中学生と作家の交流事業。 ■ 中学生職場体験受け入れ。 ■ 本の森学級文庫の充実。														
事業の成果														
■ 小中学生向け資料の充実 ○ おはなし会の実施 参加者の連絡先が確認できる申込制、定員制で引き続き実施した。申込制方式は、参加者の年齢や人数が把握できるため、プログラムもより子どもの年齢に合わせた内容を準備できるようになった。また、図書館員とも親しくなり、継続して参加する子どももいた。 <table><tr><td></td><td>開催した回数</td><td>参加者数</td></tr><tr><td>中央</td><td>毎月第2水曜日開催：7回（注1）</td><td>小学生 11名</td></tr><tr><td>多摩平</td><td>毎月第4水曜日開催：8回（注1）</td><td>小学生 31名</td></tr><tr><td>百草</td><td>毎月第3水曜日開催：10回（注1）</td><td>小学生 17名</td></tr></table> （注1）年間12回に満たないのは、参加者0のときがあったため ○ 「夏休みジュニアスタッフ」の実施 「夏休みジュニアスタッフ」については、中央・高幡・日野・多摩平・平山・百草で実施した。計21名の参加があった。例年通り、開館前のブックポストに返却された本の処理などの作業のほかに、新たに、参加した児童から3～6歳児に向けておすすめしたい本を紹介してもらうことも行った。紹介してもらった本は各館で展示し、図書館ホームページにリストを掲載した。 ○ 小学校との連携 小学3年生を対象に行っている学校訪問(図書館ガイダンス)を、希望する16校に実施した。（令和4年度は15校） 授業での見学やボランティア活動等での図書館への来館は、小中学校あわせて17校だった。（令和4年度は14校） ○ 読書調査結果まとめ 6月に、市立小学校に在籍する第4～6学年の児童全員と、市立中学校に在籍する第1～3学年の生徒全員に、LoGoフォームにて読書調査を実施した。読書冊数のほか、児童・生徒が本に親しむ機会や環境づくりにつながるような質問や、調べ学習の向上につながるような質問を設け、不読率の推移や全国平均との比較、児童・生徒の読書環境等について分析、検証を行った。検証結果をまとめた報				開催した回数	参加者数	中央	毎月第2水曜日開催：7回（注1）	小学生 11名	多摩平	毎月第4水曜日開催：8回（注1）	小学生 31名	百草	毎月第3水曜日開催：10回（注1）	小学生 17名
	開催した回数	参加者数												
中央	毎月第2水曜日開催：7回（注1）	小学生 11名												
多摩平	毎月第4水曜日開催：8回（注1）	小学生 31名												
百草	毎月第3水曜日開催：10回（注1）	小学生 17名												

告書は、各校へフィードバックし、また今後の図書館イベントや選書などに反映していけるものとなった。

○「たかはたブッククラブ」の実施

連続した3か月を1期として、全3期を実施(1期について3日実施、計9回を開催)。定員制(6名)で、小学生に本の世界の楽しさを伝えた。継続して参加してくれる児童もあり、3年目で事業が定着してきたことが感じられた。(延べ46名参加)

【実施内容例 (第3期 1月～3月)】

- 1月 ポップアップ絵本をみんなで作ろう
ポップアップ絵本の紹介
- 2月 食べ物に関する本の紹介・読み聞かせ
「日野食育かるた」をみんなで
- 3月 絵本の読み聞かせ・おはなし
アニメーション「11ぴきのねこ」クイズ

■ 中学生と作家の交流事業

中学生と作家の交流事業では、講師に作家・脚本家の宇山佳佑氏を招き、11月5日(日)に多摩平の森ふれあい館で講演会を開催した。(参加者38名) 事前に、公募で集まった市内各中学校の中学生10名による企画運営会議を3回行った。講師による講演の後には、中学生による企画として、講師にまつわるクイズコーナー、小説づくりコーナーを実施。小説づくりのコーナーでは、中学生が3人1チームで考えた小説を発表、事前に最初の一文を講師からいただき、中学生がそれを元に小説を考案した。2チームの物語は途中で交わる様に作られており、宇山さんから「発想が良かった」など温かい講評をいただくことができた。講演会来場者からは「中学生のすばらしい才能を感じました」「作家さんのいろいろなお話を聞くことができ、大変面白かったです」「本当に来れてよかったです」など様々な感想が寄せられた。

■ 中学生職場体験の受入れ

中学生職場体験については、感染症対策を十分にとり、体験希望のあった学校から全館でのべ16校36名の生徒を受け入れた。

■ 「本の森学級文庫」の充実

「主要事業3 第4 次子ども読書活動推進計画事業 (5) 学校支援」の項目を参照。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 小学生向けおはなし会、夏休みジュニアスタッフの継続実施。
- ・ 学校訪問(図書館ガイダンス)の実施。
- ・ 中学生と作家の交流事業については、企画運営に参加する中学生を募るにあたり、学校を通じた選出

ができなくなったため、確実に事業を運営できるかどうかの見込みが立てにくい。

- ・ たかはたブッククラブを継続して実施するとともに、これまで実施してきた内容を踏まえ、さらに子どもたちが主体的に本と関わるようなプログラムを検討する。

【改善策】

- ・ 「小学生向けおはなし会」については、「たかはたブッククラブ」の例を参考にするなどし、各図書館の地域性等に合い、児童の継続した図書館利用につながるような企画を検討する。
- ・ 夏休みジュニアスタッフについては昨年度の企画(幼児へのおすすめ本の紹介)のような、参加した児童・生徒が主体的に関われるような内容も検討する。
- ・ 小学校3年生を対象に行っている学校訪問(図書館ガイダンス)については、担当する各地域館の魅力を伝えるガイダンスに取り組む。
- ・ 中学生と作家の交流事業は、講師の選定など課題が多い。これまでの形で継続していけるかどうか、別な形で中学生向けの事業が可能なのか検討をする。
- ・ たかはたブッククラブについては、引き続き、参加する子どもの年齢にあい、主体的に本と関わっていけるようなプログラムを構成し実施する。このことにより、他館での小学生へのサービス内容の参考とする。

事業項目	3-1-① 第4次日野市子ども読書活動推進計画の推進 (4)青少年へのサービス
事業の概要	第4次子ども読書活動推進計画に基づき、青少年の読書活動を推進する。
事業の成果	■ 「日野ヤングスタッフ」の活動支援 ○ 発行物の作成・情報発信 ・ 図書館ホームページ「ヤングスタッフ活動日誌！」の更新(6回) ・ 作家リスト「Talk!! Talk? Talk! ～香月日輪～」を発行した(8月)。各館・市内公共施設等で配布するとともに、図書館ホームページにも同じ内容を掲載した。(配布数:730部程度) ○ 「日野ヤングスタッフ」と他団体との交流 11月11日(土)～12日(日)に開催された実践女子大学学園祭「常磐祭」に参加し、ヤングスタッフが選んだ本の展示(テーマ「リラックス～心あたたまる本～」、30冊展示)と、日野ヤングスタッフの活動紹介ポスターの掲示、ヤングスタッフで発行したブックリストの配布をした。 ■ 各館での取り組み ○ 高幡図書館ヤングスタッフコーナーの掲示板を継続した。利用者からのヤングスタッフのおすすめ本への感想や、本の紹介文などのコメントが集まった。ヤングスタッフからの回答も掲示した。(投稿件数:2件) ○ 利用者からのお悩みにヤングスタッフがおすすめの本を記入する「お悩みノート」を昨年度に引き続き継続した。利用者同士の交流や、以前お悩みを投稿した方からの投稿も見られ、ヤングスタッフと利用者との交流につながった。(投稿件数:9件) ○ 多摩平図書館・高幡図書館での「旬の推し本」展示 どちらも展示の紹介文を見ている利用者が多く、貸出につながった。 (2タイトル展示、5月11日(木)～多摩平・高幡、5月18日(木)～高幡) ○ 多摩平図書館にて作家リスト「香月日輪」で紹介した本の展示(8月19日(土)～10月20日(金)) ○ 日野ヤングスタッフによる展示(巡回展示として、同じ本の展示を各館で行った) 第2回テーマ「本の森 緑色の本集めてみました」(展示冊数:34冊) (多摩平:5月11日(木)～6月30日(金)、高幡:7月4日(火)～9月1日(金)、平山:9月3日(日)～10月31日(火)、中央:11月2日～12月28日(木)、日野:1月16日(火)～2月29日(木)、百草:3月1日(金)～4月30日(火)) ヤングスタッフ自身からも「テーマの発想が面白かった」との感想があった。ヤングコーナーがない中央、日野、百草では初めてヤングスタッフの巡回展示をおこなったが、新鮮味のある展示となり好評だった。 ○ 「実践女子大学常磐祭で展示した本」(展示冊数:27冊) (平山:1月17日(水)～2月9日(金)、多摩平:2月15日(木)～2月29日(木)、高幡:3月1日(金)～3月31日(日))

■ その他の取り組み

○ 新たなヤングスタッフメンバーの募集

新規メンバーを募集するために、募集ポスターの更新や募集要項の見直しを行った。

＊令和5年度のスタッフ数・11名

○ 定例のミーティングは、前年度に引き続き、Zoomを使ったWeb会議と対面を併用しておこなった。実施回数は6回であった。また、会議に参加できないスタッフの意見も募るべく、LoGoフォームを用いてアンケートを行った。会議になかなか参加できなかったスタッフからは、次年度以降もアンケートを継続してほしいとの要望があった。(アンケートの実施回数:2回)

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 就職活動・受験を迎えるヤングスタッフが多く、会議の参加人数が毎回極めて少ないこと。
- ・ 毎会議後に次回会議の日程調整をするため、会議日程の決定が会議直前になってしまうこと。
- ・ ヤングスタッフの学年に偏りがあるため、今後数年でほとんどのメンバーが卒業を迎える見込みであり、ヤングスタッフの世代交代が起きていること。

【改善策】

- ・ ヤングスタッフ募集チラシ・ポスターを更新し、各図書館や市内公共施設、市内中学校・高等学校・大学に配布する。
- ・ ヤングスタッフの募集枠を中学生まで拡大し、Webからも申し込みができるようにする。また、ヤングスタッフの活動内容がわかるように、ホームページのヤングスタッフ紹介ページの更新を検討し、メンバーの増加を図る。
- ・ 会議日を毎月第3日曜日に固定し、会議に参加しやすいようにする。
- ・ 高幡・多摩平のヤングコーナーの充実・ヤング世代の需要を調べるために、ヤングスタッフが「図書館の蔵書に加えたい本」を選書する機会を設定する。

事業項目 3-1-① 第4次日野市子ども読書活動推進計画の推進 (5)学校支援																																			
事業の概要																																			
■ 学校図書館を支援するために、小中学生が身近な学校図書館で本と親しみ、学習することができるよう、学校搬送便や読み物セット「本の森学級文庫」の配本を引き続き実施する。 ■ 小中学生の読書活動の推進を図るため、司書教諭連絡会等での情報交換、学校からの依頼による調べ学習のための資料の搬送、貸出資料リストの提供等により、学校図書館との連携の強化を図る。 ■ 図書館・学校図書館システムを活用し、より迅速、正確に学校図書館と情報共有する。																																			
事業の成果																																			
■ 「本の森学級文庫」の配本 令和5年度は、1、2年生の低学年向けの図書を約270冊購入して、2学期の搬送分から汚破損本の入れ替えと新刊図書を提供した。 【本の森学級文庫配本実績】 小学校17校 各学年へ年3回(学期ごと)配本。 延べ 51 回 18,125冊 (令和4年度実績 延べ 51 回 18,024冊) ■ 学校搬送便の運行 小中学校の調べ学習・宿題・読書指導等で図書などの資料が必要な場合、各学校に学校搬送便で送り、貸出している。依頼の多いテーマを参考にして学校搬送用に新たに資料を購入し、学校からのリクエストに応じて貸出を行った。 【学校搬送実績】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th></th><th>学校数(校)</th><th>クラス数(クラス)</th><th>延べ回数(回)</th><th>資料数(冊)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調べ学習用</td><td>小学校</td><td>17 (15)</td><td>57 (54)</td><td>119(93)</td><td>3,495 (3,065)</td></tr> <tr> <td>資料搬送</td><td>中学校</td><td>4 (2)</td><td>4 (4)</td><td>4 (5)</td><td>168 (236)</td></tr> <tr> <td>特別支援学級搬送</td><td>小学校</td><td>3 (3)</td><td>3 (3)</td><td>18 (15)</td><td>953 (912)</td></tr> <tr> <td colspan="2">合計</td><td>24 (20)</td><td>64 (61)</td><td>141(113)</td><td>4,616(4,213)</td></tr> </tbody> </table> ※ ()内は令和4年度(2022年度)実績 ■ 学校図書館との連携強化 ○ 図書のミニ展示会と学校へのリサイクル図書頒布 6月7日(水)の小教研図書館部会で、児童図書関連出版社による図書のミニ展示会を開催した。同時に、学校で利活用してもらうために図書館のリサイクル図書を頒布した。(10校561冊) ○ 学校図書館司書・司書教諭の研修 5月16日(火)、教育指導課主催の「学校図書館司書・司書教諭の研修会」に参加した。研修会では「第								学校数(校)	クラス数(クラス)	延べ回数(回)	資料数(冊)	調べ学習用	小学校	17 (15)	57 (54)	119(93)	3,495 (3,065)	資料搬送	中学校	4 (2)	4 (4)	4 (5)	168 (236)	特別支援学級搬送	小学校	3 (3)	3 (3)	18 (15)	953 (912)	合計		24 (20)	64 (61)	141(113)	4,616(4,213)
		学校数(校)	クラス数(クラス)	延べ回数(回)	資料数(冊)																														
調べ学習用	小学校	17 (15)	57 (54)	119(93)	3,495 (3,065)																														
資料搬送	中学校	4 (2)	4 (4)	4 (5)	168 (236)																														
特別支援学級搬送	小学校	3 (3)	3 (3)	18 (15)	953 (912)																														
合計		24 (20)	64 (61)	141(113)	4,616(4,213)																														

4次日野市立図書館基本計画の策定と学校図書館に関わる計画の内容」と「本の森学級文庫配本および調べ学習資料貸出の令和4年度実績」について報告を行った。(多摩平の森ふれあい館集会室)

事業の課題と改善策

【課題】

- ・「本の森学級文庫」について、児童数に応じたクラス単位での配本を行う。
- ・調べ学習に役立った本について学校の意見を集め、資料の充実を図る。

【改善策】

- ・「本の森学級文庫」について、児童数に応じたクラス単位での配本を可能にするための資料費(図書費)および搬送にかかる費用等の確保に努める。また、教育指導課や学校とともにより効果的な方法を検討する。
- ・図書館職員全体で学校搬送事業についての情報共有を図るとともに職員体制や業務分担を見直し、学校などからの問い合わせにも適切な回答をするなど業務が効率よくできるようにしていく。
- ・担当者以外の職員とも協力して行えるようマニュアルを作成する。
- ・調べ学習に役立った本についてのアンケートは、現在の「貸出リスト評価シート」を改良し、わかりやすく、簡単に答えられるような形式(双方向でやりとりできるような)にして、より現場の声を集められるようにする。また、図書貸出システムを活用した情報共有も検討する。
- ・学校搬送で利用された資料をテーマごとにリスト化し、それを各学校で参考にしてもらえる体制を検討する。

事業項目	3-2-② 図書館の利用に障害がある方の読書環境の整備																									
事業の概要	通常の印刷文字での情報入手が困難な方や、図書館への来館が困難な方などに対し、情報提供や情報入手サポートを行う。これらのサービスについて広く周知し、必要とする人に提供する。 主な実施内容 ■ 音訳・点訳資料の制作・貸出 ■ 音訳・点訳者の養成 ■ 対面朗読 ■ 資料宅配サービス ■ 利用者への読書機器の使い方指導 ■ その他利用者への点字指導、スマートフォンの使い方指導																									
事業の成果	■ 音訳・点訳資料の製作・貸出 ○ 制作した音訳・点訳資料は、利用者に図書の情報を積極的に提供し、すべて利用者からのリクエストに基づいて実施した。また、サピエに登録した録音図書は、リクエストに応じて全国で借りられている。 ○ 令和5年度の資料の作成件数・貸出件数<table><tr><td>作成件数</td><td>点字図書</td><td>72タイトル</td><td>録音図書</td><td>87タイトル</td></tr><tr><td>貸出件数</td><td>点字図書</td><td>324タイトル</td><td>録音図書</td><td>4,504タイトル</td></tr><tr><td>相互貸借貸出</td><td>点字図書</td><td>681タイトル</td><td>録音図書</td><td>8,329タイトル</td></tr><tr><td>相互貸借借用</td><td>点字図書</td><td>303タイトル</td><td>録音図書</td><td>1,000タイトル</td></tr></table> ○ 個人貸出に加え、七生特別支援学校や放課後デイサービスへの貸出も行った。 ○ 学習障害のある小学生のために録音図書やマルチメディアDAISY図書の提供をした。 ■ 音訳・点訳者の養成 ○ 音訳者の音訳活動の質を高めるため、11月13日(月)、27日(月)、12月11日(月)の3回、音訳者講習会を実施した。参加者23人（令和4年度:26人） ○ 音訳者が減少していることへの対応として、経験のある音訳者の募集を行い、二人の経験者の方が新規登録された。 ○ 音訳者に対する個別講習や、点訳者への、点字絵本作成に関するアドバイスなどを実施した。<table><tr><td>音訳者登録数</td><td>30名(36名)</td><td>点訳者登録数</td><td>30名(9名)</td><td>※()内は令和4年度の数値</td></tr></table>また、団体「八王子六つ星会」にも点訳の依頼をした。 ■ 対面朗読 ○ コロナ禍により利用が控えられていた対面朗読は、少しずつ利用が増加している。オンラインによる対面朗読は、利用がなかった。	作成件数	点字図書	72タイトル	録音図書	87タイトル	貸出件数	点字図書	324タイトル	録音図書	4,504タイトル	相互貸借貸出	点字図書	681タイトル	録音図書	8,329タイトル	相互貸借借用	点字図書	303タイトル	録音図書	1,000タイトル	音訳者登録数	30名(36名)	点訳者登録数	30名(9名)	※()内は令和4年度の数値
作成件数	点字図書	72タイトル	録音図書	87タイトル																						
貸出件数	点字図書	324タイトル	録音図書	4,504タイトル																						
相互貸借貸出	点字図書	681タイトル	録音図書	8,329タイトル																						
相互貸借借用	点字図書	303タイトル	録音図書	1,000タイトル																						
音訳者登録数	30名(36名)	点訳者登録数	30名(9名)	※()内は令和4年度の数値																						

○ 令和5年度の対面朗読の実施状況

163件 延べ291時間 延べ音訳者数242人 利用者10人
(令和4年度: 115件 延べ224時間 延べ音訳者数208人 利用者8人
そのうちオンライン35件 延べ61.5時間 利用者2人)

■ 資料宅配サービス

- 病気や障害など、何らかの事情で図書館まで出向くことが困難な方に本を届ける資料宅配サービスを、職員と宅配ボランティアによって実施した。職員が直接利用者と対面する機会にもなった。
- 病気などで外出困難な利用者の場合、宅配サービスを受け新しい情報を得ることで回復の手助けとなり、職員と対面することで気分が張りが出たりする等の効果を得ることができた。
- 令和5年度の資料宅配サービスの利用実績、
344回(そのうちボランティア49回) 貸出図書冊数 1,398 冊 利用者30人
(令和4年度は、システム障害により不明)

■ 読書機器の使い方指導など

- 視覚障害者に対してスマートフォンの使い方指導を行い、7人の方がスマートフォンを用いて情報を得ることができるようになった。(時間数82時間)
- 中途視覚障害者の方1人に点字指導を行った。(時間数78時間)

■ その他

- 市内小学校5校からの依頼により、4年生12クラスを対象に点字授業を実施した。(令和4年度6校15クラス) 授業では、点字図書や生活用品の紹介、視覚障害者の生活の紹介等を行った。子どもたちは、点字の書き方を知り実際に作成することで、点字や視覚障害についての理解を深めることができた。
- 図書館の利用に障害のある市民やそのご家族に対して、より積極的に図書館の障害者サービスをPRするため、地域協働課と連携し、自治会回覧板にて、案内パンフレット「障害者サービス利用案内」「すべてのこどもたちに読書の喜びを」を22自治会に配布した。(令和4年度実績:18自治会)
- 子育て課のイベント「みんなの遊・友ランド」に参加し、マルチメディアDAISY図書紹介のデモンストラーションを行った。(令和5年6月11日(日)ふれあいホールにて)
- 障害福祉課による「障害者週間イベント」とコラボレーションして、障害に関する図書の展示を行った。(令和5年12月3日(日)～9日(土))

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 次世代に障害者サービスを引き継いでいく新たな体制づくり。
- ・ 音訳者・点訳者の減少・高齢化への対応。
- ・ システム更新に向けたパソコン環境の改善と適切なセキュリティ管理。
- ・ 図書館の障害者サービスを必要とする市民への周知の継続。

【改善策】

- ・ 図書館全体や市役所の関連部署等との連携、他市との情報共有を積極的に行っていく。
- ・ 音訳者、点訳者とも経験者を募集し、養成していく。新規育成のための講習会を実施する。
- ・ 個人情報の安全な管理方法を構築し、セキュリティ対策を万全にする。
- ・ 聴覚障害者の方の利用を促すため、館内入口に手話の表示をする。
- ・ 日野市のLINE活用、福祉、医療施設への広報を通じて障害者サービスの周知を行う。
- ・ 図書館での障害者サービスを市民へ周知するためのイベントや関連する本の展示などを実施する。

事業項目	3-3-① だれでも気軽に立ち寄れる雰囲気づくり
事業の概要	■ 必要に応じて感染症対策を行い、安心して立ち寄れる空間づくりに努める。 ■ 図書館の入口やフロアなどで、季節にあった飾りつけや展示を行う。 ■ 図書館は、目的・理由がなくても、だれでも立ち寄れる場所であることを、関係各課と連携して広報する。
事業の成果	■ 必要に応じて感染症対策を行い、安心して立ち寄れる空間づくりに努める 各館ともに継続して消毒液を設置した。 ■ 図書館の入口やフロアなどで、季節にあった飾りつけや展示を行う 各館の取り組みは以下のとおり 【高幡図書館】 ・ 季節に合わせたポスターを児童室に10回掲示した。 ・ 成人の本の展示を12回、ミニ展示を15回、児童本の展示を15回行い、本を紹介した。 【日野図書館】 ・ 絵本コーナーや新しい本コーナーで、ひなまつりなどの季節感のある装飾を行った。夏にはふうせんかずらを窓辺につたわせ、涼しさを演出した。秋には収穫した種をおはなし会の時などに子どもたちに配った。駐車場内の花壇に草花を植え、手入れをした。地域の方に駐車場の樹木を剪定していただいた。 【多摩平図書館】 ・ 会計年度任用職員が正月用にした「書」を2枚掲示し、お正月の華やかな雰囲気を演出できた。 【平山図書館】 ・ 児童室において年中行事・季節感を重視し、折り紙などで壁面等の飾りつけを実施した。 【百草図書館】 ・ 季節ごとに入口の看板の装飾をおこなった。 ・ 階段にポスターをはり、2階の図書館にあがりやすくなるように工夫した。 ・ 児童室に季節ごとの装飾・本の展示をおこない、親しみやすくなるように努めた。 ・ 8月1日(火)から、児童室に絨毯スペースを設置。図書館ホームページで周知した。少しずつ親子連れ、子ども同士など靴を脱いでくつろぐ姿が見られてきた。 【中央図書館】 ・ メインテーマ展示以外の場所で、時節に合った展示を行った。 ■ 図書館は、目的・理由がなくても、だれでも立ち寄れる場所であることを、関係各課と連携して広報する ・ 館報「ひろば」以外で、だれでも立ち寄れる図書館をPRすることを検討 ・ 中央図書館では3月より、キャレルに電源を使える席を設けたほか、利用目的を限定しない席(自習可)を開放した。

事業の課題と改善策

【課題】

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 各館の取り組みの継続・ 図書館についての広報 |
|---|

【改善策】

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 季節を意識した展示等を計画的に実施する。・ 他課との連携企画等をおこない、積極的に図書館を PR する機会を持つ。 |
|--|

事業項目	4-1-③ 読書体験の共有・発信
事業の概要	■ 本の感想などを利用者が発信し、他の利用者が本を選ぶ際にそれを参考にできる企画を継続して実施する。 ■ 図書館員がおすすめの本を紹介する「図書館員の本箱」を図書館報「ひろば」と図書館ホームページで公開する。 ■ 夏休みジュニアスタッフや職場体験の中学生などによるPOPやポスターを使ったおすすめ本の紹介を行う。 ■ SNSなどを活用した読書体験の新たな共有・発信方法を検討する。
事業の成果	■ 本の感想などを利用者が発信し、他の利用者が本を選ぶ際にそれを参考にできる企画を継続して実施する 【多摩平図書館】 読書週間の時期(11月)に、子どもから成人向けの企画として、利用者のおすすめ本をコメント付きで募集し、本と一緒に展示した。好評だったため、終了後もPOPを館内に掲示した。 【平山図書館】 1月に児童室に花と葉っぱのカードを置き、おすすめ本を紹介してもらうコーナーを設置した。 【百草図書館】 2月の展示のテーマを「過去5年間の児童ポスターに、皆さんが書いてくれたおすすめの本を一挙公開!」とし、子どもと保護者からのおすすめの本を展示し、図書館ホームページで公開した。 ■ 図書館員がおすすめの本を紹介する「図書館員の本箱」を図書館報「ひろば」と図書館ホームページで公開する 毎月、職員による「図書館員の本箱」を図書館ホームページで公開した。 ■ 夏休みジュニアスタッフや職場体験の中学生などによるPOPやポスターを使ったおすすめ本の紹介を行う ○ 夏休みジュニアスタッフ、職場体験の生徒に、POPを作成してもらった(実施館:中央・高幡・日野・多摩平・平山・百草)。同様に、たかはたブッククラブ参加児童(高幡)、三沢中ちょこっとボランティア参加生徒(百草)にも作成してもらった。作成したPOPと、POPで紹介された本と一緒に展示したところ、同世代だけでなく、大人にも利用された。 ○ 図書館実習生に「実習生の本箱」としておすすめの本の紹介文を書いてもらい、図書館報「ひろば」と図書館ホームページに掲載した。 ■ SNSなどを活用した読書体験の新たな共有・発信方法を検討する ○ 7月・8月に各館で行った夏休みジュニアスタッフに参加した子どもたちが選んだ、幼児におすすめしたい本を図書館ホームページのこどものページで「2023ジュニアスタッフがえらんだ3～6さいむ

けのえほん」として公開した。

○ 図書館ホームページのこどものページで「今月のおすすめ」の児童書を毎月掲載した(3月～)。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 利用者がおすすめ本を紹介できる各館の取り組みの継続。
- ・ 各館の取り組みの積極的な広報

【改善策】

- ・ 引き続き利用者が本の感想などを発信する場を設けていく。
- ・ 各館の取り組みを積極的に図書館ホームページ等に取り上げる。

事業項目	4-1-④ 電子図書館サービスの導入検討
事業の概要	■ 電子図書館サービス、サービス提供企業の動向や他の自治体の導入事例について調査する ■ 市民のニーズや、導入後の効果などを考慮しつつ、電子図書館サービスの導入について検討する
事業の成果	■ 電子図書館サービスの導入検討・準備 ○ 令和6年度導入に向けて、電子図書館サービスの利用が活発な立川市立図書館に対し、主な利用者やよく利活用される電子書籍のジャンル、予算編成などについてヒアリングを行った。また、導入までに必要な準備について検討した。 ○ 主な検討内容は、電子図書館サービスの主な利用対象(ターゲット)、利用申請方法、初期設定、広報・PR活動である。また、電子書籍の選書に向けて、「日野市立図書館資料収集方針」及び「日野市立図書館資料選定基準」の改定案の作成や、電子図書館で扱えるタイトル、ライセンス契約などについての調査・検討を行った。 ○ 電子図書館サービスの導入費用の調達のため、デジタル田園都市国家構想交付金の申請を行った。 ○ 図書館職員向けとしては、各種説明資料や試用サイトを用いて、電子図書館サービスの概要について周知した。
事業の課題と改善策	【課題】 ・ 図書館利用者登録や更新手続き等のオンライン化 電子図書館を利用するために、登録情報の更新や新規利用者登録を要する市民からの問い合わせがあったが、現時点ではオンラインによる手続きが整っていないため来館を要する。 ・ 電子図書館サービス及び電子書籍についての職員への周知・習熟 各種説明資料や試用サイトを用いて周知を図ったが、実際に操作するまで電子図書館がどういったものであるかわからない・わかりづらいという意見があった。また、正規職員に対しては庁内掲示板で周知が図れるが、会計年度任用職員は利用できないため、実際にサービスを始めたときに説明できるようにするには、館内の連絡環境も整えることも課題である。 ・ 導入年度においてはデジタル田園都市国家構想交付金により、電子書籍を購入する予算があるが、令和7年度以降に確実に予算を獲得していくことが課題である。特に、ライセンスの更新を要する電子書籍(読み放題パックなど)の費用の確保が課題である。 【改善策】 ・ 図書館利用者登録や更新手続きのオンライン化 他自治体における事例をもとに、既存の電子申請手段(LoGoフォームや東京共同電子申請・届出サービス)を用いて手続きのオンライン化を進める。「日野市立図書館運営規則」の改定や、「日野市情報公開・個人情報保護運営審議会」への報告などを要するため、関係部署と連携して検討・実施していく。あわせて、図書館協議会へも報告していく。

- ・ 会計年度任用職員を含めた操作研修

実際の電子図書館サービスを用いて、操作方法や利用のルールについて研修を行う。

- ・ 各種交付金や事業者からの寄贈などの検討

立川市での事例や企業版ふるさと納税など、日野市でも活用できそうな事例や制度を検討し、予算の確保に努める。

事業項目	4-2-① 本や読書などの魅力を伝えるイベント・企画などの開催
事業の概要	■ 市民が読書の楽しさを発信・共有できるよう、読書会やビブリオバトルなどの開催を推進する。 また、これらのイベントを市民の力で開催できるよう、団体・個人へ支援を行うとともに、図書館が市民主催で立ち上がったイベントをコーディネートする役割を果たせるよう体制を整える。 ■ 講演会などを開催し、本や読書を通じて市民が集う場の拡充を図る。 ■ 子どもたちに向けたイベントとして、「としょかんおはなしピクニック」や「中学生と作家の交流事業」のほか、「たかはたブッククラブ」を継続して開催する。
事業の成果	■ 読書会などのイベントの実施 ○ 連続講座「はじまりの読書会」(全5回)を実施した。 第1回 10月25日(水)『握手』井上ひさし／著 第2回 11月22日(水)『あとみよそわか』『うずまき』幸田文／著 第3回 12月27日(水)『越前竹人形』水上勉／著 第4回 1月24日(水)『君本家の誘拐』辻村深月／著 第5回 2月28日(水)『妻が椎茸だったころ』中島京子／著 会場:高幡図書館 9名参加 講師:青木笙子氏・中井敦氏 今年度は、第4回に講師交代があったが、講師が参加者としても参加していたため、特に問題なく引き継ぐことができた。 各回で取り上げた著者の他の作品や作家論など関連資料を集め、講師との事前打ち合わせのなかで、読書会で紹介する本を決めた。紹介した本については、会場内に展示し、各回終了後に、参加者が自由に手にとれるよう展示した。また、使用した資料を読書会終了後、高幡図書館で124冊展示したところ、のべ94冊貸出しされた。 ○ 百草図書館で、地域の方が読書会やビブリオバトルのイベントを談話室にて年間5回企画・実施した。館内ポスター掲示等で、PRに協力した。地域の方同士の本を通じた交流が生まれた。 ■ 講演会などを開催し、本や読書を通じて市民が集う場の拡充を図る ○ 1月20日・21日(土・日)、女性総合センター・アイムで開催された「第36回多摩郷土誌フェア」に参加し、日野市の刊行物を紹介した。2日間で88点・65,000円の売り上げがあった。 ○ 11月23日(木・祝)に多摩平の森ふれあい館3階で開催された生涯学習課主催の「ひのまなびのまつり 2023」に出展し、中央図書館50周年にちなんだ展示と“ひまわり号”のぬりえや工作、“はらぺこあおむし”の工作を行った。 ■ 子どもたちに向けたイベントの実施 ○ 6月に「としょかんおはなしピクニック」として市内在住絵本作家つがねちかこさん講演会を行った。 事業項目 3-1-①(1)参照。

- 11月に「中学生と作家の交流事業」で講師に作家・脚本家の宇山佳佑氏をお招きし、講演会を行った。
事業項目 3-1-①(3)参照。
- 「たかはたブッククラブ」を企画し、年9回開催した。ブックトークや工作などを通じ図書館の本を紹介した。
事業項目 3-1-①(3)参照。
- 移動図書館ひまわり号で、2団体へ個別訪問し、本の貸出を行った。
 - ・ 発達・教育支援センター『エール』（2月13日(水))
 - ・ みさわ児童館（2月21日(水))

みさわ児童館への訪問では、本の貸出しのほかに子どもたちが楽しめるよう、幾つかの工作も準備した。学校の下校時間と重なり、ひまわり号のよい PR になった。

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ イベントの継続的实施。

【改善策】

- ・ イベントを計画的に実施できるように事前に準備をおこなう。
- ・ 他機関と積極的・継続的に情報交換をおこなう。

事業項目	5-1-② 双方向によるコミュニケーションの充実
事業の概要	■ 図書館や読書について、市民と図書館での双方向のコミュニケーションができる仕組みづくりを検討 例えば、掲示板の設置やSNSなどの活用 ■ 図書館をより身近に感じてもらえるよう、市民目線でのコミュニケーションに努める 例えば、掲示物や発行物において、わかりやすい表現の利用や、デザインの工夫など
事業の成果	■ 双方向のコミュニケーションができる仕組みづくりの検討 図書館報「ひろば」50周年記念企画として読者の声を募る企画を実施した。紙のほか、Webからも投稿できるようにしたところ、全6件の投稿のうち、4件がWebからであった。いただいた声は、「ひろば」2024年2月号で紹介した。 ■ わかりやすい表現でのコミュニケーションの工夫 職員が簡単に広報物を作成できるよう、以下のものを作成した。 ・広報物作成のための広報物のテンプレート10種。 (「夏休みジュニアスタッフ募集」や「読み聞かせ入門講座」のチラシの他、流用できるシンプルなもの) ・広報用イラスト素材(パターン素材35種、年末年始向け素材5種) ・広報物作成のコツに関する資料
事業の課題と改善策	【課題】 ・ひろば50周年企画への投稿数から、紙媒体での限界が感じられる。 ・広報物作成に関しての職員のスキルアップ。 【改善策】 ・SNSの動向を注視する。利用者が安心して利用できるSNSについて、調査・検討を行い、活用方法を探る。 ・研修等を行い、職員のスキルの底上げを図る。

事業項目	5-2-① 図書館の利活用や来館につながるようなサービスの普及・啓発
事業の概要	■ 図書館の利用方法や活用方法についての案内・周知に努める ■ 転入者や市内の高校などへ利用案内を配布し、利用者のすそ野拡大を図る ■ 最新の情報に更新した利用案内の発行
事業の成果	■ 図書館サービスのPR ○ 図書館報「ひろば」を発行した。(月1回・年12回、約 15,000 部) ○ 「広報ひの」に、毎月のおはなし会のスケジュール、各種イベント情報を掲載した。また、日野市教育広報「ひのっ子きょういく」にも図書館の子どもに対する取り組みの紹介記事を掲載した。 (年3回:郷土教育「旭が丘小学校の異聖歌たち」の展示を中央図書館で実施／「どんな本がすき？」リストのすすめ／「中学校と作家の交流事業」報告) ■ 図書館ホームページの活用 ○ 内容について、また、見やすさやわかりやすさについて適宜見直し、図書館サービスの周知に努めた。 ○ こどものページに「今月のおすすめ本」を毎月更新して掲載した。(3月～) ○ クラシックに特化したインターネット音楽配信サービス、ナクソス・ミュージック・ライブラリー(NML)の「月刊クラシック通信」を毎月更新して掲載した。(12月～) ○ ひまわり号の運行情報や図書館からのお知らせを随時掲載した。 ○ 令和5年度の図書館ホームページのアクセス数は、883,667 件だった(ただし、これはトップページのアクセス数で、各ページの数はいずれも計測していない)。令和4年度の 1.2 倍となった。 ■ 利用案内の作成・配布 ○ 令和4年度に印刷した利用案内について、各図書館の案内図を最新の情報に修正して使用した。 ○ 引き続き、日野市への転入手続きを行う際に、市民窓口課の窓口で配布してもらっている。
事業の課題と改善策	【課題】 ・ 図書館の取り組みの周知。特に、多くの市民に行き届くような広報の工夫。 ・ 図書館ホームページの構成のブラッシュアップや、魅力的なコンテンツの追加・更新。 ・ 利用案内の在庫が大量にあると、修正する必要があった場合には手作業での修正となってしまう、負担が大きい。 【改善策】 ・ 館報「ひろば」、図書館ホームページを中心に、庁内掲示板や市のホームページ、広報ひの、プレスリリース等を利用し、積極的に図書館のPRをしていく。

- ・ 利用案内は、令和7年度のシステム更新を考慮して、必要最低限の修正で用意する。

事業項目	6-1-① 図書館におけるDXのあり方の検討
事業の概要	■ 図書館システムの更新を見据え、図書館運営の仕組み・体制やサービスのあり方も含め、中長期的な図書館のDXのあり方について検討する
事業の成果	■ 図書館業務システム更新に向けたプロポーザルの準備 ○ 令和4年度に見送ったシステム更新について、令和6年度にプロポーザル方式による事業者選定に向けて、仕様調整や内部説明の再準備を進めた。 ○ 仕様調整に当たっては、教育指導課や情報政策課とも連携しながら、できるだけシステムのカスタマイズが少なく、かつ業務の規模に適した仕様となるよう検討した。 ■ 内部事務の効率化 ○ 各館において不足していた庁内ネットワークに接続できるパソコン端末について、情報政策課とともに台数の見直しを行い、6台増設できた。全館で25台となったことで、庁内システムへアクセスしやすくなり、情報共有の環境は改善された。
事業の課題と改善策	【課題】 ・職員の不足 電子図書館サービスの導入と時期が重なったことにより、システムや情報通信について一定の知識がある職員に業務が集中した。 ・庁内ネットワーク環境の整備 庁内ネットワーク用パソコン端末の増設はされたが、館によっては有線接続のため、限られた場所でのみしか使えない。 【改善策】 ・業務の分散 できる範囲で複数職員に業務を分散させ、特定の職員に業務負担が集中する状態を解消させる。 ・関連部署と連携した情報通信環境の整備 引き続き、庁内ネットワークへの接続環境の改善に向けて、情報政策課などに働きかけを行う。

事業項目	6-1-② 施設の老朽化対策・防災安全対策の推進
事業の概要	■ 各地域館の施設・設備の老朽化に対応するために、計画的に修繕を実施する。またその予算の確保に努める ■ 利用者の安全を確保し、市民の財産である蔵書を将来に残していくため、防災対策を進める
事業の成果	■ 各館の施設・設備の老朽化に対し、「学びの場」として社会教育施設の機能を満たし、安全な施設利用を持続的に提供していくために、今後の施設整備の具体的方針・計画を示した「社会教育施設(一部)個別施設計画」を策定した。(詳細は、主要事業2に記載済み) ■ 各館の施設・設備の老朽化に対応するため、令和5年度は以下の修繕を行った。 【中央図書館】 排煙窓修繕／庇及び漏水修繕 【高幡図書館】 漏水対策修繕／雨水槽排水管修繕／絶縁不良改修修繕／冷温水発生機燃焼モーター交換修繕／ポンプ電源警報線修繕／照明器具交換修繕／2階事務室冷暖房(※1) 【日野図書館】 漏水対策修繕料／駐車場改修修繕／南面入口ガラスビート修繕 【平山図書館】 非常用照明器具修繕／排煙オペレータ修繕／空調漏水修繕／2階授乳室電気温水器配管修繕／1階男子トイレ大便器洗浄弁修繕 (※1) 高幡図書館の2階事務室の空調が故障により使えなくなったが、冷暖房機を備品として購入することで対応した。 ■ 産業振興課の小規模修繕の制度を活用して、以下の修繕も行った。 【百草図書館】 階段、廊下表面修繕 ※ 小規模修繕は、産業振興課が日野市商工会に委託して公共施設の修繕を行うもの。おおむね50万円以下の修繕を委託して行う。
事業の課題と改善策	【課題】 ・ 施設老朽化への対応については、社会教育施設(一部)個別施設計画に基づき、着実に実施する。 ・ 予算の確保 ・ ロードマップに示された改修・修繕の計画的な実施

【改善策】

- ・ 施設老朽化への対応については、社会教育施設(一部)個別施設計画に基づき、着実に実施する。特に、雨漏りや電気関係など、利用者や職員の安全・安心のために必要なものを優先して対応する。

事業項目	6-3-① 職員研修の充実と職員の育成
事業の概要	■ 研修の目標や対象などを明確にした、研修実施計画を作成する ■ 研修の内容は、図書館サービスに関する専門的研修や接遇など、図書館に求められる様々なニーズに合わせた適切なテーマとする ■ 研修計画に基づいて研修を実施することで、高度で専門的なスキルを有した職員の育成に努める ■ 館内研修に限らず外部研修も活用し、研修の充実や職員の育成に努める
事業の成果	■ 研修実施計画の作成は着手できなかった ■ 令和5年度館内研修は、職員にアンケートを行い、希望が多かった下記の内容で実施した。 テーマ 「日野市の障害者サービスとレファレンスサービスの基礎」 講師 図書館職員(障害者サービス担当/レファレンス担当) 日時 令和6年(2024年)2月26日(月)13:30～16:00 参加人数 16名 内容 日野市の図書館の障害者サービス事業について/司書資格を持たない職員にも役立つレファレンスサービスの基本と参考図書・参考資料の紹介 経験年数が浅い職員や、司書資格を持たない職員を主な対象とした基礎的な内容だったため、「業務に対する心構えから現状、課題まで理解できた」「参考となる資料を知ることができ、勉強になった」といった感想が寄せられた。職員の実務スキルの底上げができた。 ■ 以下の外部研修を受講した。 ・児童図書館専門研修(1)(都立多摩図書館 6～7月の3日間 1名) ・児童図書館専門研修(2)(都立多摩図書館 1月25日(木)2名) ・東京都市町村立図書館長協議会研修会「図書館等における複製及び公衆送信ガイドライン」 (福生市民会館 11月22日(水)3名) ・区市町村立図書館職員等レファレンス研修(テーマ別研修)「美術情報」 (東京都立中央図書館 10月5日(木)1名) ・区市町村立図書館職員等レファレンス研修(テーマ別研修)「東京情報」 (東京都立中央図書館 9月7日(木)1名) ・区市町村立図書館職員等レファレンス研修(テーマ別研修)「ビジネス情報」 (東京都立中央図書館 12月7日(木)1名) ・区市町村立図書館等職員向け資料保全(製本)研修 (東京都立中央図書館 10月18日(水)1名)

事業の課題と改善策

【課題】

- ・ 研修実施計画を作成するための職員体制が十分でない。
- ・ 館内研修については、司書としての専門性を高めるための職員育成だけでなく、司書資格を持たない職員にも役立つものも継続して実施していく。
- ・ 館内研修に多くの職員が参加できるような仕組み作り。

【改善策】

- ・ 研修実施計画を作成する。特に、新規採用職員対象のものと異動してきた職員対象の研修計画を早期に作成する。
- ・ 館内研修については、職員アンケートの希望に沿った内容で行い、図書館職員として求められるスキルだけでなく、日野市の職員として求められる能力も視野に入れた研修を行う。また、同じ内容の研修を日程や曜日を変えて実施し、多くの職員が参加できるように工夫する。

過去5年間の統計数値

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
蔵書数（図書）	合計	843,715	846,872	844,476	835,120
	一般書	659,116	661,667	656,212	648,217
	児童書	184,599	185,205	188,264	186,903
受入数（図書）	合計	34,694	33,380	30,478	29,390
	一般書	25,063	24,109	22,032	20,865
	児童書	9,631	9,271	8,446	8,525
除籍数（図書）	合計	26,612	30,223	32,894	38,746
	一般書	20,343	21,558	27,487	28,860
	児童書	6,269	8,665	5,407	9,886
視聴覚資料	保有数	4,998	5,102	6,762	5,262
購入雑誌	タイトル数	507	507	504	494
利用登録者	合計	35,166	28,341	30,146	30,630
	成人	30,176	24,901	26,113	26,767
	児童（15歳以下）	4,990	3,440	4,033	3,863
利用登録率	合計	18.83%	15.15%	16.12%	16.36%
	成人	18.64%	15.36%	16.06%	16.44%
	児童（15歳以下）	19.83%	13.82%	16.30%	15.88%
開館日数		313	265	298	312
	合計	1,574,761	1,342,530	1,477,776	1,465,388
	一日あたり貸出数				
個人貸出数	一般書（雑誌含む）	5,031	5,066	4,959	4,697
	児童書（雑誌含む）	1,053,461	895,405	952,744	955,564
	児童書（雑誌含む）	507,295	436,372	515,078	500,625
移動図書館による団体貸出（雑誌・CD含む）	視聴覚資料	14,005	10,753	9,954	9,199
	団体数	53	54(*1)	53	53
	貸出冊数	23,200	21,246	16,099	26,178
予約受付（雑誌・CD含む）	受付件数	503,493	493,964	543,902	534,677
	所蔵資料提供	493,968	486,207	535,455	527,504
	借用資料提供	9,525	7,757	8,447	7,173
レファレンス	件数	3,349	2,755	2,403	不明
					1,675

※1 定期巡回の団体数は53 表中「不明」となっている項目は、ランサムウェア感染の影響のため

過去5年間の統計数値

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
延べ利用者数	合計	440,254	359,640	413,189	417,749
	一日あたり利用者数	1,402	1,357	1,387	1,346
	中央	68,421	57,750	69,259	67,626
	高幡	87,029	72,042	79,526	79,605
	日野	60,093	47,935	59,078	58,740
	多摩平	135,134	107,372	122,052	126,377
	平山	45,681	36,732	41,605	43,914
	市政	4,815	4,205	4,820	5,029
	百草	34,970	29,124	32,204	32,574
	移動	4,111	4,480	4,645	3,884
館別 個人貸出数 (一般図書)	合計	1,053,461	895,405	952,744	930,898
	中央	181,691	158,386	169,517	156,302
	高幡	201,619	175,007	185,510	180,794
	日野	149,313	123,802	133,541	127,648
	多摩平	314,285	258,659	272,938	275,804
	平山	104,953	87,910	93,858	95,877
	市政	10,811	10,037	11,034	10,571
	百草	76,516	67,562	71,347	70,466
	移動	14,273	14,042	14,999	13,436
	合計	507,295	436,372	515,078	490,610
館別個人貸出数 (児童図書)	中央	93,605	80,332	97,132	90,789
	高幡	78,068	68,605	78,435	75,963
	日野	90,300	72,457	85,120	80,865
	多摩平	159,724	142,779	170,284	159,629
	平山	38,247	33,167	38,702	42,059
	市政	1,856	1,770	2,212	2,800
	百草	35,603	26,670	33,259	30,668
	移動	9,892	10,592	9,934	7,837

奉仕実績

(1) 蔵書状況(蔵書数)

① 図書

区 分	蔵書数(冊)	年間受入(冊)	年間除籍(冊)
一 般 図 書	615,886	21,527	53,858
児 童 図 書	187,610	7,648	6,941
計	803,496	29,175	60,799

② CD・ビデオ等

資料名	保有数
CD	4,721
カセットテープ	15
DVD	336
ビデオソフト	219
レコード等	13
計	5,304

③ 雑誌・新聞

	購読新聞	雑 誌		
		購入	寄贈	合計
中 央 図 書 館	32	204	18	222
高 幡 図 書 館	25	121	6	127
日 野 図 書 館	11	88	3	91
多 摩 平 図 書 館	16	166	5	171
平 山 図 書 館	19	79	5	84
市 政 図 書 室	29	61	44	105
百 草 図 書 館	16	104	3	107
移 動 図 書 館	0	43	0	43

※購読新聞は、購入、寄贈の合算

(2) 利用者数・貸出点数

① 利用登録者数

成人(人)	児童(人)	登録者総数(人)	登録率(%)
27,444	3,786	31,230	16.65

※登録者数:年度内に貸出した人数

登録率:登録者数を令和6年4月1日の人口187,617人で除して算出

② 延べ利用者数、開館日数

館 名	延べ利用者(人)	開館日数(日)
中 央 図 書 館	67,626	313
高 幡 図 書 館	79,605	313
日 野 図 書 館	58,740	313
多 摩 平 図 書 館	126,377	313
平 山 図 書 館	43,914	313
市 政 図 書 室	5,029	293
百 草 図 書 館	32,574	313
移 動 図 書 館	3,884	—
計	417,749	—

③ 個人貸出点数

区 分	一般図書	児童図書	CD・ビデオ	計
中央図書館	156,302	90,789	476	247,567
高幡図書館	180,794	75,963	604	257,361
日野図書館	127,648	80,865	345	208,858
多摩平図書館	275,804	159,629	4,312	439,745
平山図書館	95,877	42,059	924	138,860
市政図書室	10,571	2,800	45	13,416
百草図書館	70,466	30,668	2,406	103,540
移動図書館	13,436	7,837	129	21,402
計	930,898	490,610	9,241	1,430,749

④ 移動図書館・駐車場別貸出点数

駐 車 場 名	貸出 点数	駐 車 場 名	貸出 点数	駐 車 場 名	貸出 点数
シティハイツ日野旭が丘	2,872	新井わかたけ公園	673	貉谷戸公園	551
西平山第一公園	821	さいかちぜき公園	772	万願寺中央公園	838
緑ヶ丘公園	714	大坂西公園	497	ちょうまんぴら公園	996
市営向川原団地	950	新坂下公園	316	七ツ塚公園	770
百草団地アポロ広場	743	都営日野栄町二丁目アパート	82	旭が丘地区センター	3,348
水車公園	1,188	松風公園	867	※イベント等による個人貸出 279	
ほほえみ公園	710	南平丘陵公園	283		
石田環境プラザ	2,038	万願寺渡西公園	1,094	貸出総冊数	21,402

駐車場数 21カ所
 年間利用者数 3,884人
 貸出冊数 21,123冊

延べ巡回回数 470回
 一駐車場平均巡回回数 22回
 平均利用者数 8.3人

一駐車場平均貸出冊数 1,005.9冊
 一駐車場一巡回当たり
 平均貸出冊数 44.9冊

⑤ 団体貸出点数

区 分	一般図書	児童図書	CD・ビデオ	計
中 央 図 書 館	297	2,199	0	2,496
高 幡 図 書 館	67	1,159	2	1,228
日 野 図 書 館	27	795	0	822
多 摩 平 図 書 館	695	3,696	6	4,397
平 山 図 書 館	17	340	0	357
市 政 図 書 室	0	0	0	0
百 草 図 書 館	150	1,566	7	1,723
移 動 図 書 館	2,371	14,160	0	16,531
計	3,624	23,915	15	27,554

※移動図書館は延べ114回巡回。(定期利用団体53団体、その他団体が利用)

⑥ 図書館連携事業

日野市民の他市図書館利用	市 名	新規登録者	貸出冊数
	八 王 子 市	132	8,635
	府 中 市	110	4,323
	調 布 市	28	2,007
	町 田 市	6	232
	多 摩 市	600	34,608
	稲 城 市	17	3,161
	立 川 市	261	8,496
	国 立 市	11	232
	合 計	1,165	61,694
他市市民の日野市立図書館利用	市 名	新規登録者	貸出冊数
	八 王 子 市	406	45,886
	府 中 市	24	1,150
	調 布 市	6	187
	町 田 市	10	955
	多 摩 市	51	4,136
	稲 城 市	6	396
	立 川 市	24	687
	国 立 市	30	972
	合 計	557	54,369

(3) リクエストサービス(処理件数)

	図書			雑誌			視聴覚	合計
	所蔵	借用	小計	所蔵	借用	小計	所蔵	
中央図書館	11,098	721	11,819	1,375	43	1,418	100	13,337
高幡図書館	13,751	1,683	15,434	534	70	604	88	16,126
日野図書館	7,548	808	8,356	848	39	887	30	9,273
多摩平図書館	15,596	1,786	17,382	735	51	786	75	18,243
平山図書館	6,262	596	6,858	725	45	770	57	7,685
市政図書室	586	143	729	74	4	78	3	810
百草図書館	4,866	710	5,576	2,235	12	2,247	59	5,882
移動図書館	1,011	55	1,066	64	0	64	1	1,131
OPAC全館	20,837		20,837	1,926		1,926	85	22,848
WEB(※1)	398,302		398,302	31,245		31,245	2,900	432,447
合計	479,857	6,502	486,359	37,761	264	38,025	3,398	527,782
上記受付数中、 電子申請(※2)による受付数			3,131					3,131

※1 図書館のホームページを使ったリクエスト

※2 東京都及び市区町村が共同で組織する東京電子自治体共同サービスを使った電子申請によるリクエスト

(4) 参考調査

① レファレンスサービス(文献調査)

区分	日野市 関係	多摩・東京 関係	地方行政 関係	一般 主題	計
中央図書館	182	105	0	393	680
高幡図書館	19	17	0	213	249
日野図書館	29	16	0	132	177
多摩平図書館	17	6	0	85	108
平山図書館	63	4	0	249	316
市政図書室	410	47	31	76	564
百草図書館	20	7	0	118	145
計	740	202	31	1,266	2,239

※ 地方行政関係は、市政図書室のみでカウント。他の館では一般主題と一緒にカウントしている。

② コピーサービス

館 名	カラー枚数(枚)	白黒枚数(枚)	調定済金額(円)
中 央 図 書 館	912	12,810	164,580
高 幡 図 書 館	773	17,694	207,860
日 野 図 書 館	437	6,020	77,680
多 摩 平 図 書 館	1,017	9,063	131,310
平 山 図 書 館	1,155	14,840	194,600
市 政 図 書 室	152	8,089	86,970
百 草 図 書 館	360	5,574	70,140
計	4,806	74,090	933,140

(5) 児童・青少年サービス

① おはなし会

(定例おはなし会)

※ 開催回数は、参加者0の会も含む

会 場	開催日	回数	参 加 人 数				
			0才～	3才～	小学生	小計	大人
中 央 図 書 館	毎月第 4 木曜日	12	71			71	69
	毎月第 2 水曜日	12		26	11	37	18
高 幡 図 書 館	毎月第 1 水曜日	12	81	34	54	169	98
日 野 図 書 館	毎月第 3 水曜日	12		24		24	27
多 摩 平 図 書 館	毎月第 2 木曜日	13(注)	113			113	110
	毎月第 4 水曜日	12		47	31	78	42
平 山 図 書 館	毎月第 3 木曜日	12	16			16	16
百 草 図 書 館	毎月第 3 金曜日	12	38	29	17	84	64

※ おはなし会の開始時間

0～2歳児 午前 10 時 30 分～(中央、多摩平、平山)、午後 3 時～(高幡、百草)

3歳～ 午後 3 時 30 分～(中央、高幡、日野、多摩平、百草)

小学生以上 午後 4 時～(中央、高幡、多摩平、百草)

(注) 多摩平図書館では、4 月の日付を誤記して広報したため 2 回開催した。

(出張おはなし会等)

訪問先	合計回数
子育てひろば平山「ぽっかぽか」おはなし会(年 12 回)	32 回
子育てカフェ「モグモグ」 地域の親子と子育てサークルの交流会	
ほっとも高幡 学童クラブ 15 か所	
子ども家庭支援センター多摩平「子育てひろば」ミニ講座	
子ども家庭支援センター万願寺「子育てひろば」ミニ講座	
たまだいら児童館「ふれっしゅ」すくすくクラブ ミニ講座	

② 「たかはたブッククラブ」

小学生対象、予約定員制。職員による本の紹介や図書館探検など子どもと本とを結びつける事業

開催月日	会場	参加者数(人)
5～3月 (4、8、12月を除く第1水曜日)	高幡図書館	全9回 46人の小学生が参加

③ 「子ども読書の日」関連事業(おはなしピクニック)

行 事 内 容	備考
市内在住絵本作家つがねちかこさん講演会 「子育てと絵本」と 原画展	6 月 25 日(日) 平山季重ふれあい館 3 階大ホール 親子 33 人参加

④ 読み聞かせ入門講座

行 事 内 容	備考
集団に対する読み聞かせの仕方、本の選び方、参考図書の紹介、実習	5 月 19 日(金) 多摩平の森ふれあい館集会室 6 6 月 23 日(金) 高幡図書館おはなしの部屋 計 18 人参加

⑤ 学校訪問

図書館職員が市内小学校の3年生のクラスを訪問し、市立図書館の利用案内・本の紹介・絵本の読み聞かせ・昔話の語り等を行っている。(16 校)

月・日	学校名	月・日	学校名
5 月 8 日(月)	平山小学校	5 月 11 日(木)	旭が丘小学校
6 月 1 日(木)	日野第一小学校 日野第六小学校	6 月 15 日(木)	七生緑小学校 豊田小学校
6 月 16 日(金)	夢が丘小学校	6 月 23 日(金)	東光寺小学校
7 月 7 日(金)	日野第八小学校	7 月 14 日(金)	日野第三小学校
7 月 14 日(金)	潤徳小学校	9 月 7 日(木)	仲田小学校
10 月 20 日(金)	日野第五小学校	11 月 16 日(木)	南平小学校
2 月 15 日(木)	日野第四小学校	3 月 15 日(金)	滝合小学校

⑥ 学校へ貸出・搬送(学校搬送便)

市内小中学校からの要望に応じて、授業内容に沿った資料や読書指導に必要な図書を貸し出し、搬送している。

搬送回数(のべ)	貸出冊数
のべ 141 回	4,616 冊

⑦ 「本の森」学級文庫配本

子ども読書推進のため、小学校全学年へ読み物を中心とした図書セットを配本している。

回 数	貸出冊数
のべ51回	18,125冊

⑧ 中学生の職場体験学習

行事名	備 考		
職場体験	中央図書館	5 校	13 人
	高幡図書館	4 校	8 人
	日野図書館	1 校	4 人
	多摩平図書館	3 校	5 人
	平山図書館	3 校	6 人

⑨ 夏休みジュニアスタッフ(小学校 5 年生・6 年生・中学生)

行事名	備 考			
夏休みジュニア スタッフ	中央図書館	2 人	高幡図書館	3 人
	日野図書館	3 人	多摩平図書館	6 人
	平山図書館	3 人	百草図書館	3 人

⑩ 来館(施設見学、ボランティア活動、おはなし会、等)

行 事 名	開催日	実施館	
小・中学校	随時	中央、高幡、日野、多摩平、平山、百草、市政	17 校
その他の団体	随時	中央、多摩平、百草	4 団体

⑪ 市立幼稚園・保育園等への配本

幼稚園・保育園に対し、年齢に見合った図書を選定・配本し、読書活動の推進を図っている。

のべ配回数	配本冊数
のべ 44 回	2,340 冊

⑫ ボランティア懇談会

市内で活動する子どもの本に関わる団体相互と図書館とが情報交換を行う。

12月5日(火) 多摩平の森ふれあい館(集会室5) 10団体参加

⑬ 青少年読書活動事業「日野ヤングスタッフ事業」

青少年が自ら企画・立案し、イベントの開催、推薦図書リストの作成等を行った。

公募により、市内在住・在学の大学生・高校生が参加。

行 事 名	開催月日	備考
市内大学連携事業 「実践女子大学常磐祭」展示	11月11日(土)～ 11月12日(日)	テーマ展示のみで常磐祭に参加した。 (テーマ「リラックス～心あたたまる本～」)

⑭ 中学生と作家の交流事業

中学生が本に親しみ、自ら読書の楽しさを発信する活動を支援。

開催日	会 場	講 師	参加者(人)
11月5日(日)	多摩平の森ふれあい館 (集会室6)	宇山佳佑氏	48人

※ 参加者数には、企画運営した中学生 10 人を含む

(6) 障害者サービス

① 利用者、音訳点訳登録者、点字図書、拡大写本、対面朗読数

利用者数		音訳者	点訳者	点字図書			拡大写本		対面朗読		
個人	団体			作成枚数	貸出		作成枚数	貸出タイトル数	件数	のべ時間	のべ音訳者数
					タイトル数	巻数					
232	14	30	30	6484	324	324	54	163	163	291	242

② 録音図書の作成・貸出数

作 成						貸 出					
テープ図書		DAISY 図書		合計		テープ図書		DAISY 図書		合計	
タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数
0	0	87	87	87	87	0	0	4,504	4,504	4,504	4,504

③ 相互貸借の貸出・借用数

貸 出						借 用					
テープ図書		DAISY 図書		点字図書		テープ図書		DAISY 図書		点字図書	
タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数
0	0	8,329	8,869	681	681	5	6	1,000	1,000	303	381

④ 宅配による貸出数

利用者数	回 数	貸出図書冊数	視覚障害者向け IT 講習	視覚障害者向け 点字指導
30 人	344 回 (ボランティア 49 回)	1,398 冊 (ボランティア 138 冊)	7 人 82 時間	1 人 78 時間

⑤ 講習会開催数

講 習 名	講 師	開催回数	開催場所	受講者(人)
音訳者講習会(中級)	成毛 由紀子氏	3 回	多摩平の森ふれあい館	23

⑥ 出張点字授業

点字や視覚障害者の理解を深めるため、市内小学校4年生を訪問している。

訪問日	学校名	クラス数
9月16日(水)	日野第七小学校	3
10月6日(金)	東光寺小学校	2
11月7日(火)	夢が丘小学校	2
11月16日(木)、17日(金)	南平小学校	3
1月18日(木)	七生緑小学校	2
計	5校	12

(7) 刊行資料

資料名(1回当りの発行部数)	発行回(回)	発行部数
館報「ひろば」	12	15,600
新聞記事速報(1回あたり230部)	243	55,890
資料の広場(1回あたり90部)	9	810

(8) 視聴覚ライブラリー

① 視聴覚機材、16ミリフィルム保有数及び貸出数

資料・機材名	保有数	貸出数
16ミリ映写機	1	0
8ミリ映写機	1	0
スライド映写機	1	0
スクリーン	8	0
暗幕	19	17
16ミリフィルム	60	0

② 16ミリ映写機検定

項 目	開催日	検定台数	会場
16ミリ映写機検定	9月4日(月)	4台	中央図書館

(9) インターネットサービス

- ① ホームページアクセス件数 883,667件
- ② パスワード発行数 2,372件
- ③ メールアドレス登録者数 (累計)24,075人
- ④ インターネット検索パソコン利用回数

インターネットの情報を図書館でも検索できるように、各館にインターネット端末を設置している。

中央	高幡	日野	多摩平	平山	市政	百草	合計
573	339	453	1,444	278	110	320	3,517

⑤ 持込 PC 用電源利用受付数

中央	高幡	日野	多摩平	平山	市政	百草	合計
755	253	124	682	328	－	32	2,174

(10) テーマ展示

本との出会いを生む取組として、テーマごとに蔵書の紹介をしている。

(1) 中央図書館

	テーマ
4月	中央図書館50周年
5月	中央図書館50周年
6月	【在宅支援】住み慣れた家で、自分らしく暮らしたい
7月	子どもだってひとりの人間
8月	戦争を思い出す
9月	【環境】非常事態！
10月	食品ロス
11月	【児童虐待防止】
12月	【障害者週間】
1月	ご存じですか？この人物
2月	読んでみませんか？古典文学
3月	レファレンス室をのぞいてみよう

(2) 中央図書館 レファレンス室

	テーマ
4月	初代館長 前川恒雄氏
5月	日野を歩こう
6月	郷土資料館を見てみよう
7月	ひのっ子
8月	多摩と戦争
9月	多摩の災害と防災
10月	日野でスポーツを楽しむ
11月	童謡詩人 巽聖歌
12月	産業で振り返る日野の昭和・平成
1月	多摩の歳時記
2月	日野宿発見隊
3月	水の郷 日野

(3) 高幡図書館

	テーマ
4月	「植物を身近に感じませんか」
5月	【子育て支援】「みんな子どもだった」 ／手紙の本「ラブレターをあなたに」
6月	「梅雨に読みたい本」／「時を感じて」／追悼 平岩弓枝
7月	ラジオ本放送開始記念日「いつもかたわらにラジオが」 ／【子ども条例】

8月	【平和】戦争と平和について考える／「日野市の地域を知る副読本『わたしたちの日野』『のびゆく日野』（郷土資料館展示とのコラボレーション）
9月	自殺を防ぐために／関東大震災から100年
10月	【SDGs】異常気象と地球温暖化／まちゼミ関連図書、「読書会2023年10月 井上ひさし関連資料」
11月	戦後の高幡とハイキング 地域の今・昔（郷土資料館パネル展示同時開催）／「読書会2023年11月 幸田文関連資料」
12月	「竜にまつわる本」／「高次脳機能障害関連資料」（障害福祉課資料展示同時開催）／読書会2023年12月 水上勉関連資料」
1月	「噺をじっくり聴いてみる～落語の世界」／「過去から学ぶこと備えること」／「マンホールの世界」（マンホールカード配布開始に併せて）／「読書会2024年1月 辻村深月関連資料」
2月	「猫を抱いて温まる」／「読書会2024年2月 中島京子関連資料」
3月	耳についての 耳よりな情報

(4) 日野図書館

	テーマ
4月	マイペース
5月	市制施行60周年記念「記念誌で辿る日野市60年の軌跡」
6月	見覚えのある風景
7月	日野市子ども条例啓発展示「衣・食・住」／【在宅支援】おたがいさま
8月	【平和】市民が綴る戦争体験と平和への思い
9月	おいしい料理に舌鼓
10月	ガスのある生活
11月	【児童虐待防止】子どもたちを虐待から守るために
12月	走る
1月	ぼんやりのすすめ
2月	【SDGs】⑮陸の豊かさを守ろう「樹木」／能登地方の皆さんに思いを馳せて
3月	春の花といえば・・・

(5) 多摩平図書館

	テーマ
4月	春から始める！「〇〇入門」
5月	文学で旅する／【SDGs】気候変動。わたしたちも動きを起こさねば／ほんのもり 緑色の本集めてみました

	テーマ
6月	数学にふれてみる
7月	比べてびっくり！世界のいろいろ／日野市子ども条例／夏休み宿題おうえんコーナー
8月	【平和】生きていた証し～記憶と記録～／PlanTビジネスプランコンテスト／作家リスト「香月日輪」で紹介した本
9月	きっぷ 切符／【認知症】
10月	ノーベル賞月間～ノーベル賞受賞者の著作～／【まちゼミ】
11月	私のおすすめ本(ヤング～成人)／私のおすすめ本(児童)
12月	多摩平図書館の近隣に住んでいた文学者／クリスマス・お正月／バリアフリー図書の紹介
1月	ようこそ、平安文学の世界へ／【子育て支援】子育て、イロイロ。／竜が出てくる本
2月	電気／YA心あたたまる本
3月	音楽×小説・えほん／【自殺対策】／学校

(6) 平山図書館

	テーマ
4月	「エンディングノート」と士業のお仕事
	【小特集】独裁者たちの春
	【追悼】坂本龍一 氏
5月	スパイ ～知られてはならない仕事～【小特集】東京大学の〇〇、今日マチ子装丁の本、太田南畝の世界、没後40年 寺山修司：アングラを生きた男、【児童ミニ展示】トマトの季節です！、【追悼】海野 弘 氏
6月	SDGsは続くよ2030年まで、【小特集】牧野富太郎博士、【児童ミニ展示】虫歯の本
7月	子どもといっしょに ～日野市子ども条例施行15周年～、キラキラ☆ブシ～サムライが主人公の小説～、【小特集】読んで、食べて、カレーライス(汗)、【追悼】ベニシア・スタンリー・スミス 氏
8月	戦争×映画×原作 ～語りつぐ～、【小特集】吸血鬼文学の系譜、【追悼】森村誠一 氏
9月	認知症を考える、【小特集】関東大震災100年 ～あの日、なにが起こった
10月	Back to the「図書館員の本箱」、【小特集】消滅したプロ野球団、【緊急展示】知っておいた方が、いい。
11月	児童虐待防止月間 ～カゾクノカタチ～、【小特集】ユルい本 ～いいのか、それで?! 形容詞シリーズ①～

	テーマ
12月	環境問題を意識する、平山図書館的R.I.P. 2023、【小特集】年末によく聞く<アレ>
1月	点字の本・手話の本 ～1月4日は「世界点字デー」～、【早すぎる?!小特集】 蔦屋重三郎 ～来年の大河ドラマ～
2月	紫式部文学賞作品、【小特集】生誕100年 女優・エッセイスト 高峰秀子
3月	相談しよう、そうしよう！ ～自殺対策強化月間に寄せて～、【小特集】思い とどまれ！小説で ～自殺対策強化月間に寄せて～、生誕100年の人たち ①、【追悼】梓 林太郎 氏

(7) 百草図書館

	テーマ
4月	種をまく、農作業を楽しもう
5月	あなたと短歌を
6月	食べることは生きること
7月	子どもは社会のたからもの 日野市子ども条例
8月	言葉でつなぐ平和
9月	いろんな見方・価値観
10月	散歩に出てみよう
11月	人との会話術・文書術
12月	好きなことを我慢しないで叶う夢
1月	暮らしの中から見えてくる気候変動を考える
2月	みなさんの好きな本を教えてくださいました！
3月	もっと知りたい紫式部／ヤングスタッフミニ展示「本本本(ほんのもり)」

(11) 日野宿発見隊活動

活動内容	開催月日	会場	参加者数等
日野宿発見隊第107弾 「スタンプラリーin 日野宿2023」	5月13日(土)	日野宿内	277人
日野宿発見隊第108弾 第19回子ども発見隊 「夏休み！親子で調べよう日野用水」	7月22日(土)	新東光寺地区センター前 用水	39人
日野宿発見隊第109弾「八坂の祭り 写真展」	9月1日(金)～ 30日(土)	八坂神社玉垣ほか	83点
日野宿発見隊第110弾 第20回子ども発見隊 「行灯をつくろう」	12月16日(土)	日野宿交流館	14人
日野宿発見隊通信第21号発行	3月1日(金)	日野一小、東光寺小、仲田 小学区内自治会配布	400部

※「日野宿発見隊第107弾「スタンプラリーin 日野宿2023」」の「参加者数等」は、スタンプ帳頒布数。

※ 子ども発見隊の参加者数等には、発見隊の隊員・事務局の人数も含む

(12) はじまりの読書会2023

	開催日程	とりあげた作品	会場	講師
第1回	10月25日(水)	『握手』 井上ひさし／著	高幡図書館 読書会室	第1回～第3回 青木笙子氏 第4回～第5回 中井敦氏
第2回	11月22日(水)	『あとみよそわか』『うずまき』 幸田文／著		
第3回	12月27日(水)	『越前竹人形』 水上勉／著		
第4回	1月24日(水)	『君本家の誘拐』 辻村美月／著		
第5回	2月28日(水)	『妻が椎茸だったころ』 中島京子／著		

※参加者数 9人

(13) その他

① リサイクル図書配布

配布先	施設数等	配布数(冊)
児童施設	7	383
小中学校	10	561
市他部署	5	439
その他	2	101
団体合計	24	1,484
イベント	2	2,123
個人		27,598
合計		31,205

② 実習生(大学生以上)受入

期間	団体・学校名	学年等	目的	人数
8月17日(木)～ 30日(水)	和光大学	4年生	図書館実習	1人
9月12日(火)～ 13日(水)	立教大学	3年生	社会教育主事実習	1人
12月27日(水)	市内教員	教諭	教員初任者研修	2人
2月3日(土)	市内教員	教諭	教員初任者研修	1人

(参考資料)

日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日制定

(目的)

第1条 この要綱は、図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3に規定する、図書館の運営の状況に関する評価等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市立図書館（以下「図書館」という。）は、毎年1回、図書館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 図書館は、図書館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 図書館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 図書館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 図書館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、図書館庶務整理係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、図書館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

(参考資料)

図書館協議会委員名簿

《第31期図書館協議会委員》

委員長	田代 守	社会教育の関係者
副委員長	山口 洋	学識経験者
委員	栗澤 稚富美	社会教育の関係者
委員	元木 千恵	家庭教育の関係者
委員	遠藤 直幸	公募による市民
委員	吉岡 里美	公募による市民
委員	畠山 秀保	学識経験者
委員	千葉 智弘	学校教育の関係者
委員	馬場 章夫	学校教育の関係者

任期 自 令和6年4月15日
至 令和8年4月14日

**令和6年度
日野市立図書館の運営の
状況に関する評価書**

(令和5年度事業)

令和6年10月
日野市立図書館

〒191-0053 東京都日野市豊田 2-49-2
電話 042-586-0584